

No. 14 >>> Contents

●提携支援センターから

平成 23 年産以降の生糸価格のメカニズム

..... 蚕糸・絹業提携支援センター センター長 高木 賢 ————— ①

養蚕用資材の安定供給をめざして ③

染・織りで綾なす「日本の絹展」を開催 ～国産シルクをもっと暮らしに～

..... 社団法人 日本絹業協会 ————— ⑥

平成 22 年度第 3 次純国産絹マーク使用許諾状況 (合計使用許諾者数は 127 社と拡大)

..... 社団法人 日本絹業協会 ————— ⑩

マルチコーディネート活動の依頼について ⑫

提携支援センター活動日誌 No. 14 ⑭

●今月の話題

「アイنشユタインの眼」が映し出すシルクの世界

..... (財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 ————— ⑮

●国内情報

第 63 回製糸夏期大学 (最終記念) を開催して

..... 製糸技術研究会長 高林 千幸 ————— ⑳

1 級の合格者の合格率は 3% の難関だが、その価値は大きい

..... 社団法人 全日本きもの振興会 事務局 ————— ㉘

●トピックス

国内産地情報、海外情報 (中国) ㉚

●横浜開港とシルク貿易

生糸の粗製乱造と洋式製糸器械の導入

..... シルク博物館 元部長 小泉 勝夫 ————— ㉜

●イベント情報 ————— ㉞

●登録コーディネーター一覧 ————— ㉟

●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧 ————— ㊱

●蚕糸関係博物館一覧 ————— ㊲

●蚕糸関係団体ホームページ一覧 ————— ㊳

●統計資料 ————— ㊴

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)

随想

平成 23 年産以降の生糸価格のメカニズム

蚕糸・絹業提携支援センター
センター長 高木 賢

来年度の生糸価格はどうなるのだろうか、二重価格になるのではないか、来年度も国産糸は手に入るといっている川下の業者がいるが本当か、などという声をよく聞く。

本稿では、これらの声に対する回答を試みたい。

そもそもの原理論を言えば、生糸の生産コストは、現在でも、繭代と製糸加工賃とで、普通蚕品種のものでも最低 1 万 6 千円ないし 7 千円にはなっているだろう。国産糸は外国産糸よりも相当高いので、そのコストを償う価格では売れない、かつ、繭代に対する助成金も出ないということになると、繭生産はコストを償うことができず、やめざるを得なくなる。そうすると、生糸生産をしたくても繭がないということになるから生糸もできないということになる。したがって、平成 23 年度以降は、繭生産が続けられるのは提携グループに参加した農家だけということになるし、また、世の中に存在する国産糸は、提携グループに属した農家の生産する繭を原料としたものだけということになる。提携グループで使われる国産糸以外に世の中に出回る国産糸はなくなり、国産糸を自由に入手できる市場は存在しなくなる。国産糸の希少価値が確定することになる。

それでは、提携グループの中での国産糸の取引価格はいくらになるであろうか。基本的には提携グループの中での話し合いによって決められることになるが、基本的には再生産を可能とする価格ということになる。すなわち、それぞれの提携グループは、その最終製品に必要な糸を求めるわけであるから、その繭・糸に即したコストを算定することになる。その水準がグループによって異なることがあってもやむを得ない。しかし、製糸が他の提

携グループの生糸で取り決めた取引価格がコスト割れになった場合、その分を別の提携グループの生糸の価格に乗せて取り返すということは許されない。いずれにしても、関係者が納得しての価格形成合意が望まれる。

関係者が合意形成しようとする場合、まずは、助成金を考慮に入れずに純粋な再生産可能な価格としての生糸取引価格を決定すべきである。それは、おおむね冒頭述べたような生糸の生産コストの水準ということになろう。このことが製糸と糸を使う側との間で明確に合意されなければならない。そして、それを前提とした上で、次のステップとして、交付金による助成により生糸調達の実質的な負担がいくらになるかという順序で、いわば分解して考えるべきである。これが考え方の筋である。交付金を受けている間、国産糸という原料の実質的調達コストは軽減されることになるが、最初から従来のような市場取引を前提とした発想のもとに低い生糸売買価格ありきということから思考をスタートさせるべきではない。そもそも国産糸を自由に売買できる市場は存在しなくなっているのである。提携グループにおける望ましい生糸取引価格と交付金により軽減された後の実質的な生糸負担額とは明確に区別して取り扱われなければならない。生糸に二重価格があるわけではないのである。

報告

養蚕用資材の安定供給をめざして

蚕糸・絹業提携支援センター

蚕糸・絹業提携支援センターの活動の一環として、養蚕農家等が要望している養蚕用の資材、機材の安定的な供給体制を整備することがあります。

養蚕用の資材については、メーカーの撤退などにより一部商品や部品が欠品状態となり、養蚕作業を行う上で、大きな問題ともなっています。

このため、当センターでは、平成21年度の事業から「養蚕資材安定供給ワーキンググループ」を設置し、養蚕資材の造詣の深い専門家に意見と製造のための方法等について検討をいただいております。

検討の概要

1 自動収繭毛羽取機用ゴムベルトの供給

養蚕農家から一番要望のある資材は、「自動収繭毛羽取機のゴムベルト」です。このゴムベルトは、自動収繭毛羽取機を開発・普及した当時から、「ニチリン㈱」（当時、自転車のチューブ等のメーカー）が一括製造しており、このニチリン㈱が各社の自動収繭毛羽取機の製造中止に伴い、ゴムベルトの供給も中止になりました。このため、JA全農が、ゴムベルトの代替品の試作をベルトメーカーに依頼し、いくつかの試作品が出来上がりましたが、この素材はプラ

スチックであり、毛羽がよく取れないこと、弾力がなくベルトが切れることがあるなど不都合がみられました。

しかしながら、天然ゴムによるゴムベル



（写真1）活発に検討を進めるWG会議

トの製造できるメーカーがニチリン㈱以外に見られなかったことから、対応に苦慮していたところ、ある蚕具商から「兵庫県のメーカーにゴムベルトを作ってもらったことがある」との情報があり、記憶をたどっていただきメーカー名を教えてくださいました。

「東華護謄（ごむ）工業株式会社」（兵庫県神戸市）がその会社。製造担当の方との協議を踏まえ、試作品の製造にたどり着きました。

群馬県蚕糸技術センターの協力を得て試験をした結果、ほぼ使用できるとの状況に至っています。近いうちに養蚕農家に供給できることとなると考えています。

2 回転族のボール族

回転族についても同様、製造中止となっており、今後安定的に製造・供給できる体制を検討してきました。回転族は、数社により生産されてきましたが、いずれも製造中止となり、木枠、金枠はあるものの段ボール紙製「ボール族」については、消毒等の関係から数年で更新が必要となり、今後の供給に不安が生じていました。

このため、当センターとしては、現物と同様の商品を生産できる業者の選択を急ぎ、東京都大田区にある業者（神田紙器製作所）に試作品を依頼しました。同社は、見本から紙質、接着剤等の手当てを行い、同様の商品の試作ができ、この試作品で蚕業技術研究所及び茨城県養蚕農家におい

て、上簇時に試験的に使用しました。

結果、蚕の異常もなく、営繭状況も良好なことから商品の提供が可能との判断をしています。

ただし、従来の商品に比較し、製造ロットも小さく、手作りのため、製造コストは大幅にアップすることが見込まれますが、次年度に向け、本会のプロパー事業等を活用して、従来通りの流通を確保することを検討しております。

なお、国内での木枠、金枠の製造は、コストの関係上困難が予想されるため、他国で製造しているかどうか確認中であり、その内容をもって今後の対応を検討したいと考えています。



（写真 2）試作品を点検する専門家の方々

3 養蚕用機材のメンテナンス等

養蚕用の大型機械としては、稚蚕飼育装置（チュウオウ式等）、壮蚕飼育装置（ボンビックス等）、条桑刈取機等があります。これらの機械は、ほとんど新規に製造がさ

れていませんが、農協・農家からは、定期的なメンテナンスの要望があります。

このため、この要望を受け、稚蚕飼育装置については、旧中央製作所の関係者によるメンテナンスが可能となっています（ただし、春蚕期前の一定期間に限ります。）。

また、壮蚕等飼育装置や条桑刈取機については、蚕期中の突発的な故障等の対応については、業者の方の現地対応がなかなかできないなど苦慮しています。この点の対応については、今、業者との協議を行っていますが、故障部分がかなり限られていることなどを踏まえ、応急的な措置の方法を農家の方々に教授願える場の確保を検討しております。

今後の対応等

養蚕用の資材関係については、今後も、いろいろと不都合な点が発生すると考えています。当センターとしては、その都度、対応策の検討を行っていきたいと思っておりますが、資材等の試作は、時間がかかることとなります。

資材等の代替品の確保や海外からの輸入等の可否も含めた総合的な対応を進めていくつもりであります。

養蚕農家、JA 担当者等皆様方のご理解をお願いいたします。

広報

染・織りで綾なす「日本の絹展」を開催

～国産シルクをもっと暮らしに～

社団法人 日本絹業協会

当協会は、(財)大日本蚕糸会、(社)日本絹人織織物工業会及び(財)伝統的産業振興協会の後援を得て、本年7月27日から8月2日まで、東京日本橋高島屋8階ホールに純国産絹コーナーを設置し「第7回日本の絹展～伝統工芸から創作デザインまで染・織りで綾なす～」を開催しました。

今回「国産シルクをもっと暮らしに」をテーマとしているように、この展示会は純

国産絹製品や国内で製織、製編・染色加工した伝統工芸品から最新の創作デザイン絹製品まで幅広く展示・即売し、特に養蚕、製糸、織り、編み、染加工等のすべての工程を国内で行った製品であることを証明する「純国産絹マーク」添付製品の魅力を消費者並びに業界に発信・アピールすることを目的としたものです。



写真1 展示会風景

純国産絹コーナー展示絹製品とその特長

純国産絹コーナーでは、当協会から純国産絹マークの使用許諾を得ている次の6企業が出品しました。

出展者名	主な展示製品とその特長
日本蚕糸絹業開発協同組合 (群馬県高崎市)	裏絹だけではなく表地に伝統工芸士の技を施した藍田正雄氏による江戸小紋と永井與子氏による友禅の染色技法を施した着尺地を出品し純国産絹織物の発色性をアピール。
平田組紐 (東京都豊島区)	蚕品種「ぐんま200」を使った帯締めを出品し、発色の良さをアピール。
ミラノリブ (群馬県桐生市)	蚕品種「ぐんま200」の繭を染め、染めた繭から繰糸した糸を用いたレインボースカーフや草木染めした糸を編んだセーター等アウターを出品。
門倉メリヤス (群馬県前橋市)	蚕品種「蚕太」を強撚糸し、黒に染めた糸で5本指の靴下、ベストや蚕品種「ぐんま200」を用いたアウター、靴下と富岡製糸場の繭倉庫のレンガをデザインに取り入れたマフラーを出品。
織道楽塩野屋 (京都府京都市)	蚕品種「都浅黄」を使い、綾の手紬染織工房、新啓織物（埼玉県秩父市）と技術提携して、前者で藍染めした糸を用いて柳条縮緬の技法で仕上げた御召並びに新啓織物によるほぐし織りの技法を施した御召を出品。
綾の手紬染織工房 (宮崎県綾町)	タペストリー、藍染による両緋の着尺地及びキビソ糸を使った帯を出品。

今回特筆すべきことは、織道楽塩野屋、綾の手紬染織工房及び新啓織物の3者の独自技法を駆使した創作コラボレーション作品の登場です。この3者はいずれも以前からのこの日本の絹展出品者であり、かつ前2者は純絹国産絹マーク使用許諾者であって、今回は織道楽塩野屋の製品として新商品が誕生し、参集者の話題を集めました。今後、関係企業における各方面にわたるコラボレーションにより純国産絹製品の新商品開発がますます進展することが期待されています。



写真2 コラボレーションの作品

(右) 綾の手紬工場の藍染糸を使用した織道楽塩野屋の御召
(左) 新啓織物による解し織を施した織道楽塩野屋の御召

カイコの飼育展示とミニ講演

「青熟」カイコの毛蚕から熟蚕までの各令の飼育展示と養蚕のパネル展示（東京農工大農学部蚕学研究室提供）と同大学の横

山岳准教授による分かりやすいミニ講演を行っていただきました。珍しいためか興味をもたれて繭づくりを始めた5令の熟蚕を持ち帰るお客さんも多くこの展示会への関心を高めることができました。



写真3 東京農工大学農学部横山岳先生の講演

座繰り繰糸及び真綿による紬糸づくりの実演

東京都の繭を使用して商品化している工房集団の多摩シルクライフ21研究会は、座繰り、真綿づくりや真綿からの紬糸づくりの実演を行い、特に真綿から細くて均一な紬糸を作るためには、原料真綿を作るのに工夫がいることを実際に見せてくれてこ

れもこの展示会を盛り上げていただきました。

そのほか、新啓織物、深雪スタジオ、伊豆蔵明彦、中島洋一、後藤喜美子、アトリエ inami、本場筑前博多織、秋山刺繍研究所、コスメファーム、さくら工房、峯史仁、森博らの各出品者の参加を得て、自ら制作した絹製品の展示即売を行ってもらい、会場への集客に努めてもらいました。

おわりに

今後、今回のように消費者に純国産絹製品の存在を知ってもらい、一方で日本の蚕糸・絹業の連携を確立することにより、日本の繭・生糸からつくられた純国産（質の高い、物語性のある、生産履歴の明確な絹製品）の絹製品が多く出現し、消費者にリーズナブルな価格で提供できることを望むところです。

最後に、本展示会に参加していただいた方々をはじめ、展示会の開催告知、展示会の模様取材協力していただいたプレス関係者の方々に感謝いたします。



写真 4 座繰繰糸及び真綿による紬糸づくりの実演

平成 22 年度第 3 次純国産絹マーク使用許諾状況

(合計使用許諾者数は 127 社と拡大)

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 22 年度第 3 回審査会を 8 月 3 日(火)に開催しました。今回、12 件(うち、新規の申請 8 件、生産数量の追加申請が 2 件、製品の追加申請が 1 件、生産数量、生産履歴、製品の追加申請が 1 件)から申請があり、審査委員会で審査した結果 12 件に対し、8 月 10 日(火)付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

純国産絹マーク使用許諾者は次の 12 件です。

なお、今回の許諾により合計使用許諾者は 127 社と拡大しました。

(本誌の使用許諾者一覧参照)

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
宮崎株式会社 代表者名 宮崎 恒幸 茨城県結城市結城 2 6 8 番地 (担当者: 宮崎恒幸) TEL 0296-33-2220 表示者登録番号 1 2 0	結城紬	30 反	繭生産 J A 新ふくしま管内養蚕農家 真綿生産 (有) 関根商店 手紬糸生産 自社 染 織 自社
有限会社内海呉服店きもの千歳屋 代表者名 内海 康治 東京都世田谷区祖師谷 3-28-1 (担当者: 内海康治) TEL 03-3482-0039 表示者登録番号 1 2 1	白生地	20 反	制作企画 東京シルクの会 蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 東京都多摩地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 河芳織物(有)
長島繊維株式会社 代表者名 長島 秀武 栃木県足利市旭町 8 5 2 番地 (担当者: 長島秀武) TEL 0284-41-7381 表示者登録番号 1 2 2	後染反物 (色無地)	30 反	制作企画 東京シルクの会 蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 東京都多摩地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 河芳織物(有) 染 色 自社
株式会社しょう美 代表者名 大村 八重子 広島県広島市西区横川町 2-5-2 (担当者: 大村八重子) TEL 082-232-1557 表示者登録番号 1 2 3	後染反物 (色無地)	30 反	制作企画 第一衣料(株) 繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 (株) 中田勝
合資会社治田呉服店 代表者名 治田 元雄 群馬県富岡市富岡 1 1 2 8 (担当者: 治田元雄) TEL 027-463-1611 表示者登録番号 1 2 4	後染反物 (色無地)	20 反	制作企画 (株) 猪井 繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房
株式会社丸十 代表者名 北山 典彦 大阪府東大阪市足代北 2-16-2 (担当者: 北山典彦) TEL 06-6781-2815 表示者登録番号 1 2 5	後染反物 (小紋)	30 反	制作企画 田中種(株) 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南うちりめん(株) 染 色 高田勝(株)

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)	
株式会社竹田嘉兵衛商店 代表者名 竹田 浩己 名古屋市緑区有松 1 8 0 2 番地 (担当者：竹田浩己) TEL 052-623-2511 表示者登録番号 1 2 6	胴裏絹 (群馬羽二重)	300 枚	制作企画 繭生産 製 糸 製 織 精練加工	日本蚕糸絹業開発 (協) 群馬県内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株) カブト (有) 江島屋染工場
有限会社樋口屋京染店 代表者名 樋口 元寛 埼玉県鴻巣市常光 268 - 3 (担当者：樋口元寛) TEL 048-541-3963 表示者登録番号 1 2 7	白生地 (紋意匠)	10 反	制作企画 蚕品種 繭生産 製 糸 製 織 精練加工	日本蚕糸絹業開発 (協) 上州絹星、ぐんま 2 0 0 群馬県内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株) ワタマサ 丹後織物工業組合
(生産数量の追加) 株式会社牛島屋 代表者名 武内 保衛 富山県富山市中央通り 1 丁目 6 - 9 (担当者：武内保衛) TEL 076-420-3450 表示者登録番号 0 8 2	胴裏絹 (酵素精練)	200 枚	制作企画 繭生産 製 糸 製 織 精練加工	日本蚕糸絹業開発 (協) 群馬県内養蚕農家 碓氷製糸農協 坪金工業 (株) (有) 江島屋染工場
(生産数量の追加) 株式会社丸万中尾 代表者名 中尾禎夫 滋賀県長浜市室町 1 8 0 番地 (担当者：中尾禎夫) TEL 0749-62-1660 表示者登録番号 0 2 8	後染反物	80 反	繭生産 製 糸 製 織 染 色	J A 碓氷安中管内養蚕農家 碓氷製糸農協 小林商店 (株) 一会
(製品の追加) 碓氷製糸農業協同組合 代表者名 高村育也 群馬県安中市松井田町新堀甲 909 (担当者：高村育也) TEL 027-393-1101 表示者登録番号 0 2 4	マフラー	500 枚	繭生産 製 糸 製 織 染 色	J A 甘楽富岡管内養蚕農家 自組合 織元渡豊工房 織元渡豊工房
(生産数量、生産履歴、製品の追加) 株式会社伊と幸 代表者名 伊藤 公一 京都市中京区御池通室町東入ル 竜池町 448 番地の 2 (担当者：伊藤公一) TEL 075-211-2361 表示者登録番号 0 3 5	白生地 (色無地) 白生地 (帯地) 白生地 (着尺) 胴裏絹	200 反 500 本 200 反 600 枚	企 画 蚕品種 繭生産 製 糸 製 織	自社 松岡姫 山形県・秋田県養蚕農家 松岡 (株) 羽賀恒明、奥田重之織物、 岐阜特殊織物 (株)

次回審査会の予定は 10 月 8 日 (金) です。申請される方は審査会の 10 日前までに申請書を提出してください。

通知

マルチコーディネート活動の依頼について

平成22年5月1日付け平成22蚕提携第30号
財団法人大日本蚕糸会会頭
(蚕糸・絹業提携支援センター長) 通知

財団法人大日本蚕糸会は、平成20年2月、蚕糸・絹業提携支援センター（以下「支援センター」という。）を設置し、農林水産省及び経済産業省の協力を得て、蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業を実施しているところであり、本事業の目的である蚕糸・絹業提携システムを構築して純国産絹製品を生産・販売する提携グループ（以下「提携グループ」という。）を育成するため、これまで、蚕糸・絹業関係機関・団体等に属する方の協力を得て、その任に当たるコーディネーターに登録をお願いし、提携グループの構築を推進しているところです。今年度は、提携グループ構築の最終年であ

り、この活動を加速していくことが重要な課題となっています。

特に、どの提携グループにも必ず必要となる業種に属するコーディネーターの方々には、提携グループ責任者が異なる複数の提携グループに対し、地域や業界の実態に即した包括的・機動的なコーディネート活動（以下「マルチコーディネート活動」という。）を行っていただくことが期待されています。

なお、マルチコーディネート活動については、別紙のように考えており、別添の方々に委嘱しています。

.....
(別紙)

マルチコーディネート活動について

1 マルチコーディネート活動をするコーディネーター（以下「マルチコーディネーター」という。）は、これまでの特定のグループに対するコーディネート活動のほか、次の事項に関する活動を行います。

① 提携グループ責任者が異なる複数の提携グループに対する提携システム構築に向けた

働きかけ、アドバイス、関係者間の調整など、包括的・機動的なコーディネート活動

② 蚕糸・絹業提携システムについての各方面へのPR活動

③ その他支援センターから依頼した事項

- 2 マルチコーディネーターは、原則として、JA、蚕種業、製糸業、撚糸業、シンクタンクなど、提携グループの活動に横断的に関連する組織に所属している又は所属していた個人とし、大日本蚕糸会会頭から依頼します。
- 3 マルチコーディネート活動の具体的内容及び助成額は、支援センターが個々のマルチコーディネーターと協議して決定します。また、助成対象経費は、原則として、平成23年2月末日までの活動に要する旅費及び会議費（会場借料、講師謝金等を含む。）とします。
- 4 マルチコーディネート活動に係る活動計画書の提出は、包括的・機動的活動が可能となるよう、3で決定した活動内容及び助成額の範囲内であれば、その必要はありませんが、マルチコーディネート活動に要した経費請求書、マルチコーディネート活動に係る出張及び会議に係る報告書、蚕糸・絹業提携システム形成支援事業実績報告書等の所要の手続きについては、従来のコーディネート活動の場合と同様の様式で提出してください。また、その他の事項についても、「コーディネート活動ハンドブック」のI～VIに準拠します。
- 5 これまで属していた提携グループには属したままでよいですが、当該所属提携グループから、当該マルチコーディネート活動に係る経費の請求はできません。

別添

マルチコーディネーター一覧 H 22.8.10 現在

登録番号	氏名	所属・役職名
19-010	遠田 寿之	松岡株式会社監査役
19-015	萩原 和憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
19-016	宮坂 照彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
20-008	兵頭 眞通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
20-028	松沢 清典	松澤製糸所
20-030	金井 史郎	東北撚糸株式会社代表取締役社長
21-002	小林 嘉朗	有限会社コバヤシ代表取締役
22-013	狩野 寿作	群馬県農政部蚕糸園芸課絹主監
22-014	岡 喜久男	群馬県農政部蚕糸園芸課蚕糸係長
22-015	高橋 尚義	京丹後市企画総務部企画政策課課長補佐
22-016	草間 幸男	株式会社高原社蚕種製造課長
22-017	宮本 奉三	上田蚕種株式会社取締役蚕種課長
22-018	富田 克衛	富田蚕種製造所代表
22-019	下村 輝	下村ねん糸

支援センター活動日誌No. 14 (H22.7.1 ～ H22.8.31)

年月日	活 動 内 容 等
22.7.5 ～ 22.7.6	長野県蚕糸・絹業提携システム推進会議にて蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の説明等（長野県）
22.7.27 ～ 22.8.2	第 7 回日本の絹展（日本橋高島屋）
22.8.3	(社) 日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
22.8.9 ～ 22.8.10	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明等（長野県）
22.8.9 ～ 22.8.11	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明等（京都府、滋賀県、岐阜県）
22.8.17 ～ 22.8.18	福島県蚕業技術員会議にて蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の説明等（福島県）
22.8.23	栃木県晩秋蚕期優良繭生産研修会にて蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の説明（栃木県）



華麗なアート・シルクフラワー（日本の絹展より）

「アインシュタインの眼」が映し出すシルクの世界

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所

平成 22 年 5 月 30 日放送の NHK ハイビジョンの番組「アインシュタインの眼」で繊維のスーパースターとしてシルクがクローズアップして取り上げられました。

この番組は、いろいろな物や事象などについて独自の視点から捉えると同時にその検証を行い、さらに超ハイスピードカメラや超極細内視鏡などのハイテク機器を駆使して撮影した映像と、リポーター自身が行う実験により構成された 45 分間の番組で、科学的な情報を視聴者に提供して、今、話題を集めています。

わが国の蚕糸業が、化学繊維の台頭や海外からの輸入により衰退を余儀無くされてきた現状を踏まえて、天然繊維であるシルクは小さな昆虫の蚕（お蚕さん）が作り出していること、最近になってシルクが新たな可能性を持つ驚異の天然素材として注目を集めていること、これまでシルクを知る機会があまり無かったこと（番組スタッフ）などが「アインシュタインの眼」がシルクを取り上げることになった理由だったそうです。

今回、この番組の制作に当たり制作担当者が、シルクの特徴について当蚕糸科学研究所に見学と取材に来ました。番組では、シルクの特徴をビジュアルに、そして大変解りやすく解説していますので、その内容を紹介します。

なお、本稿の掲載に当たり、使用している画像等は、NHK 制作会社テレコムスタッフの許可を得ております。番組ではまず繭と蚕に注目します。

〔繭の構造〕

繭の構造はどうなっているのかということ、X 線 CT 装置により繭の輪切り断面を見ると見事に丈夫で円の形をした繭の中に蛹と脱皮殻が映っていて、繭が外敵から身を守るシェルターの役目をしていることが判ります。

〔繭糸の長さ〕

繭は蚕が吐く 1 本の糸で作られており、

繭から取れる糸の長さは約 1,500 メートル近くありますが、その長さを検証するため、体育館に円周 100 メートルのトラックを設けます。そして、リポーターが湯に浸した 1 粒の繭から糸を挽きながら歩き続け、11 周目、すなわち 1,100 メートルを過ぎるまで切れなかったことを視覚的に見せ、繭は確かに驚くほど長い 1 本の糸から作られていること検証しています。

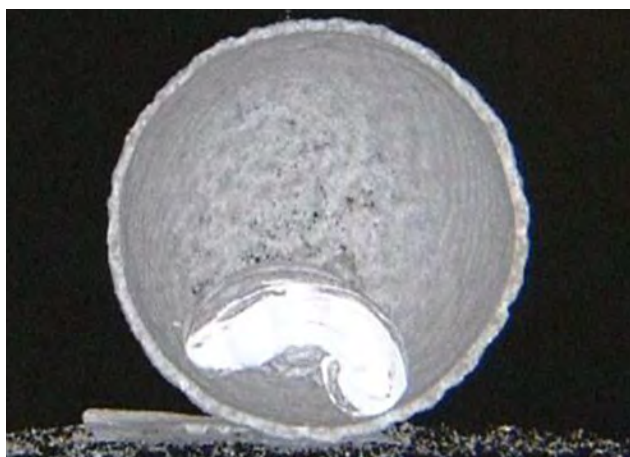


写真1 「繭の輪切り断面の形」



写真2 「体育館で繭糸の長さを検証」

〔蚕の成長〕

番組の制作に当たりスタッフは初めて蚕を飼育されたそうですが、熟蚕の足下に卵（蚕種）から孵化したばかりの蟻蚕（ぎさん）を配置した映像は、蚕がわずか1ヶ月足らずの間に1万倍にも成長することを如実に見せています。

〔営繭〕

蚕がどのようにして繭を作るのかを、内視鏡レンズを使ってガラス板上に8の字に糸を吐く様子（吐糸）を撮影したり、コマ取りカメラを使って上族した熟蚕が繭を作

る状況（営繭）を初めから完成まで逆光のもとで捉えます。さらに繭を作り続けて蚕の姿が外からは見えなくなってしまう繭の中をレンズの直径が1ミリの超極細内視鏡カメラを挿入して撮影し、繭の中で一生懸命糸を吐いている蚕の姿を捉えます。これらの映像により、蚕は糸を吐き始めると約60時間は繭を作り続け、そして休む暇無くシェルターとなった繭の中で蛹化するまでの一連の姿を克明に、また、神秘的にかつ美しく見せています。

〔シルクの機能〕



写真3 「蟻蚕と熟蚕」



写真4 「蚕が糸を吐く様子」



写真5「蚕が繭を作る様子」

次に、シルクの驚くべき機能の紹介については、紫外線カット機能を活用したシルクの日傘、人の身体にやさしいタンパク質で構成されていることを利用した手術用縫合糸、非常に軽くて制菌性機能があることから宇宙船内で着用するアンダーウェア（研究中）を取り上げて説明しました。

〔綿とシルク〕

リポーターがシルクと綿のパジャマを交互に着用し、同時時間帯に睡眠中の寝相を赤外線暗視カメラで撮影することによりシルクと綿の比較を行いました。結果は綿に比



写真6「98%UVカットの日傘」

べシルクのパジャマ着用の方が寝相の乱れが無く、睡眠中快適であることを実証しました。

〔シルクの肌触り〕

シルクの快適性として肌触りの良さを検証するため、シルクと綿のパジャマの表面を電子顕微鏡で比較し、長繊維でできたシルクには毛羽が少なく、短繊維の綿では毛羽が多く表れていることを示しました。

〔汗の吸収〕

心地良さの一つとしてシルクが「涼しい」と言われることについて、リポーターがシルクと綿の腕カバーを着け自転車こぎ運動をして発汗した時の布の表面の変化を経時的にサーモカメラで捉え、汗の吸収と放出の状態をシルクと綿について比較しています。また、水分分布カメラによりシルクと綿の布で水分の放出状況を映像として捉えました。その結果は、シルクの方が汗（水分）を速く吸収し、速く放出することから、表面の温度が低くなり「涼しい」と感じることを検証しています。



写真7「手術用縫合糸」



写真8 「開発中の宇宙船内用肌着」



写真9 「シルクのパジャマと綿のパジャマ」

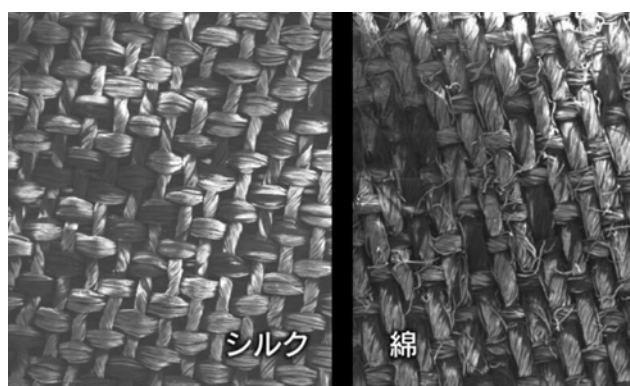


写真10 「電子顕微鏡で見たシルク織物と綿織物」



写真11 「シルクとポリエステルの光沢」

〔光沢と微細構造〕

シルクの上品な質感とやさしい光沢について、リポーターがシルクとポリエステルのドレスを交互に着て歩き、ハイスピードカメラでその動きを追ってみると、シルクはそのしなやかさがうねるように布面を広がっていき、光沢は光の波紋となって広がっていきます。一方、ポリエステルの場合は、光の輝きの強さが特徴と言えます。

繭糸を叩いて潰して、デジタルマイクロスコープで見ると細い繊維（100分の1ミリ）が現れ、フィブロインが更に細い超極細繊維から構成されていることを示しています。

シルクとポリエステルの光沢の違いを、三角形の筒に細くて丸い棒を詰め込んだ繭糸の模型と三角形の筒に水を入れたポリエステル繊維の模型に、それぞれレーザー光線を照射し、光の反射・透過の仕方の違いにより実証しています。

ポリエステルはシルクに似せて作られています。形は似ていても繊維の中の構造は異なっており、均質な構造のポリエステルは光の直接的な反射・透過となり、非常に細い繊維が束になった構造のシルクは差し込んだ光が屈折と分散を繰り返して、やさしい光沢が表れることになります。

以上、「アインシュタインの眼」で取り上げられたシルクの特徴を紹介しましたが、番組の制作方針のとおり、独自の視点、ハイテク機器を駆使した斬新な映像により、今までに常識とされてきたことについても改めてシルクの繊維のスーパースターとしての特徴を検証しています。また、蚕と繭の機能性について東京農業大学長島孝行教授が、衣料としての快適性について文化女子大学田村照子教授が、シルクの光沢性について文化女子大学森川陽教授が、それぞれシルクの専門家として出演されシルクの良さを語っています。



写真 12 「フィブロインを形成する細い繊維」

蚕が幼虫から成虫にその形態を大きく変える前の蛹で過ごす期間を、あらゆる外敵から身を守るために丈夫なシェルターを作り上げる蚕の生命力に驚くとともに、そのシェルターとしての繭が持つ防御機能が、人間にとって有用ないろいろなシルクの素材として活用されていることを再認識させてくれます。蛍光絹糸、極細繊維度繭糸、シルクタンパクなど衣料や医療分野で脚光を浴びるシルクに、これからますます目が離せないのではないかと期待に胸を膨らませてくれました。

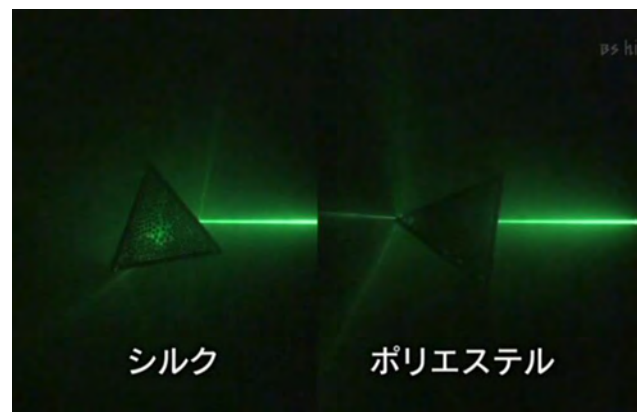


写真 13 「シルクと綿の模型による光の進み方」

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所

第 63 回製糸夏期大学（最終記念）を開催して

製糸技術研究会長 高林 千幸

はじめに

平成 22 年 7 月 22,23 日の両日、岡谷市（ライフプラザ マリオ）において、63 回目となる製糸夏期大学（主催：（独）農業生物資源研究所、製糸技術研究会）を開催しました。

昭和 23 年 8 月に第 1 回を開催し、関係諸団体のご支援を頂き、製糸技術研究会（後に（独）農業生物資源研究所が加わる）の主催により開催してきましたが、事務局を務めてきました私ども（独）農業生物資源研究所生活資材開発ユニットが平成 23 年 4 月につくばの本所に統合することとなりました。このような状況から今後の製糸夏期大学の開催について関係者と検討したところ、事務局が岡谷不在では今後岡谷で製糸夏期大学を開催することは困難との結論に達し、今回の第 63 回をもって幕を閉じることとしました。

製糸夏期大学最終記念の開催に当たり、案内を皆様にお送りしたところ、閉講を惜しむ数々の電話や手紙、電子メール等頂き、「これからも是非続けて欲しい。毎年この夏期大学を楽しみにしていたのに・・・。63 回も続けてきたのにここでやめるのは

本当に残念。これで全国規模の伝統あるシルクの講演会が終わってしまう。」等々の惜しむ声や、これまで続けてきたことへのねぎらいの言葉を頂きました。私どもとしても先輩諸氏が連綿と続けてきた伝統ある製糸夏期大学をここで閉じることは、申し訳ない気持ちで一杯です。

今年は、最終記念としての式典を行い、記念誌「製糸夏期大学 63 年のあゆみ」を刊行しました。また、最終に相応しい講演会、懇親会、見学会を開催しました。参加者総数は 169 名で、1 日目は 150 名、2 日目は 130 名の参加を頂き、盛大に開催することができました。ここに、その概要を報告致します。



写真 1 記念式典 高木 賢会頭挨拶

第1日目(7/22 午後) 記念式典

記念式典では、主催者の挨拶の後、来賓よりご挨拶を頂き、その後感謝状の贈呈を行いました。

主催者挨拶として、これまで導いて頂いた農林水産省、(財)大日本蚕糸会、岡谷市をはじめ関係諸団体の皆様、講師の先生、聴講者の皆様への感謝の気持ちをお伝えし、新たな人が時流にあった新しいシルク文化を創造する形のものを興していただければとの願いをお伝えしました。続いて同じく主催者の(独)農業生物資源研究所新保博理事より、伝統ある製糸夏期大学を農業生物資源研究所の組織変遷に伴う形で終了せざるを得なくなったことへの気持ちを述べられました。

次に、これまで支えて頂きました皆様よりご挨拶を頂きました。農林水産省生産局生産流通振興課長天羽隆氏から、これまで永年製糸夏期大学が果たしてきた役割と成果について、(財)大日本蚕糸会会頭高木賢氏からは、蚕糸行政から見た製糸夏期大学の役割や自らが講師として壇上に立った時の思い出についても触れて頂きました(写真1)。最後に、岡谷市長の今井竜五氏から岡谷で63年間製糸業の発展に努めてきた製糸技術研究会へのねぎらいの言葉と新しいシルク産業がまた発展することへの期待を込めたご挨拶を頂きました。

つづいて永年協賛を頂いた岡谷市、後援を頂いた蚕糸懇話会(前岡谷蚕糸団体協議会)及び岡谷商工会議所、そして開講当時より製糸夏期大学の運営にご指導・ご尽力

頂いた市立岡谷蚕糸博物館名誉館長・信州大学名誉教授の嶋崎昭典先生へ感謝状を贈呈させていただきました(写真2)。



写真2 岡谷市長へ感謝状の贈呈

第1日目講演

1)「製糸夏期大学 63 年のあゆみ」

製糸技術研究会長 高林千幸

63年間を30分という駆け足で振り返りました。製糸夏期大学発足当時の時代的背景、製糸夏期大学設立の経緯、63回の運営、講演概要等について述べました。ちなみに1回～63回までの講演数は432課題で、シンポジウムは22回開催されました。参加者数は62回までで10,332名であり、今回の参加者169名を含めると10,501名となります。昭和23年の第1回目は117名でしたが、その後年々参加者数が増し、昭和45年の第23回では272名という最も多い参加者数となりました。その後10年間は上下し、昭和55年の第33回を境に減少し、前回の62回では100名を少し越えるという状況でした。

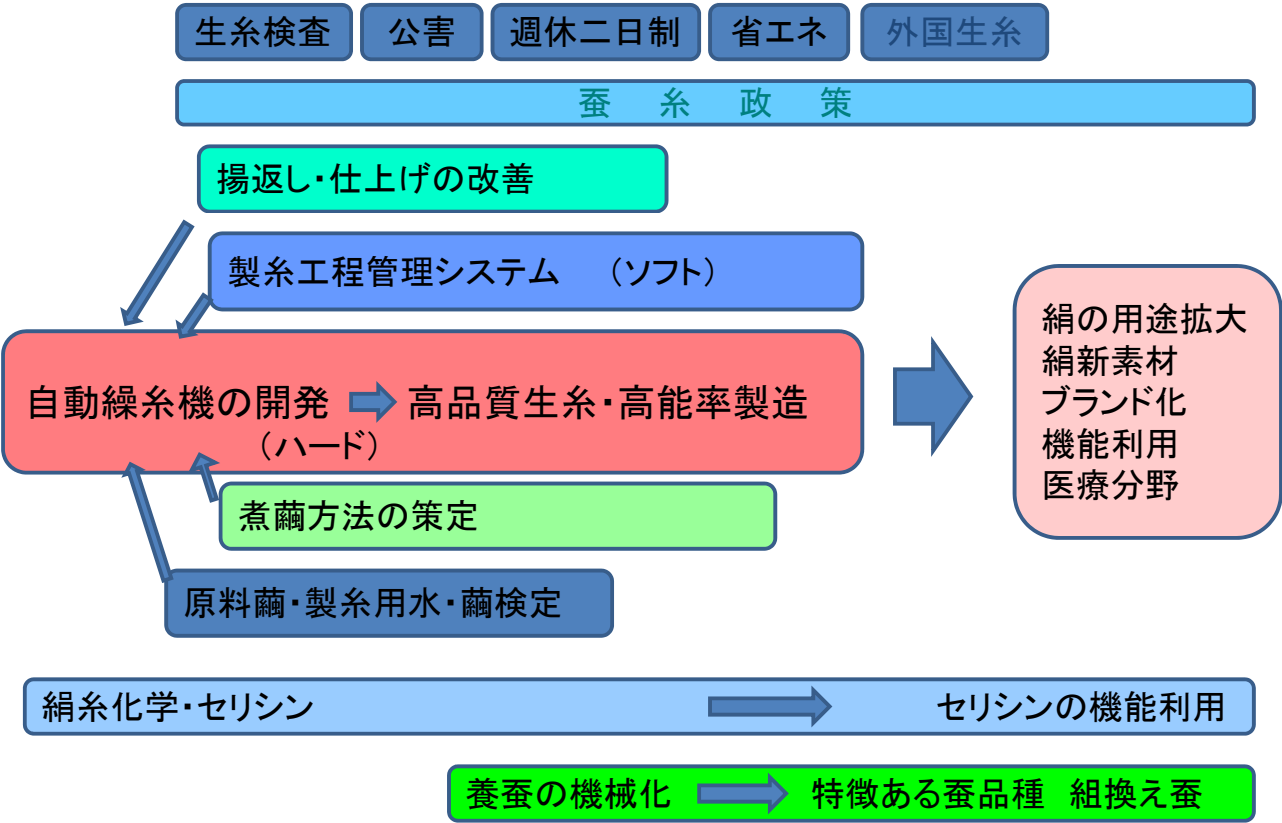
これまでの講演内容をまとめると、図1

のようになります。第1回は製糸夏期大学の名に相応しい製糸の基礎理論を中心とした講座からスタートしましたが、第2回からは既に自動繰糸機の開発の講演があり、その後自動繰糸機の開発・改良を軸として、それに適する乾繭、煮繭、揚げ、仕上げ、製糸用水、繭検定、生糸検査等の問題が論じられるようになりました。それとともに嶋崎先生を中心とする工程管理理論や自動化研究の議論が行われるようになりました。蚕糸行政についてはそれぞれの時代で論じられ、また公害や週休二日制に伴う問題、省エネ問題や、外国繭、外国生糸の品質等その時代に問題を解決するという形で

検討されました。そして、昭和60年からはシルクの用途拡大のための課題が多くなり、セリシンについては、当初は繭乾燥や煮繭処理と生糸品質との関係について論じられていましたが、昭和60年以降はセリシンの機能性利用へと方向が変わってきました。このように製糸夏期大学の講演内容を見ると、わが国の日本の製糸技術の発展経緯を読み取ることができます。これらを報告した後に、その時代、時代の様子を映像で振り返りました。

そして、最後に以下のようにまとめました。

・製糸の技術発達は、明治初期のイタリア、



S23 → H22

図1 製糸夏期大学の講演内容の推移

フランスからの繰糸機の導入以外は、総て日本の技術者・科学者・生産者の創意工夫によるものである。

- この点が、明治以降の近代産業、例えば、紡績業、製鉄業、化学繊維業、石油化学工業、自動車工業等々の技術発達史と本質的に相違している。
- 63 年を振り返った時、先人が新しい道を切り拓き、それに向かう勇気と知恵と努力を学ぶことができた。
- その中から、これからの成すべきヒントが見えてくるのではないのでしょうか。

2) 「糸繰りの道

ー久遠の彼方から悠久の未来へー」

市立岡谷蚕糸博物館名誉館長・信州大学名誉教授

嶋崎昭典氏

中国の出土品から「人と絹との関わりは七千年の昔から」といわれている久遠の彼方から、これからも悠久に続く糸繰りの未来への壮大な講演でした（写真3）。

先生は、8 課題に分け講演されました。

(1) 「古代からのメッセージ」として、出土品や糸文字を通して繭糸は理想の織物原糸



写真3 講演風景 嶋崎昭典先生

であったこと、(2) 「より掛けを中心にした繰糸の変遷ー日本近代繰糸への道ー」 として、明治以前の中国、日本、欧州でより掛けの技術の開発・改良が行われたこと、(3) 「明治の生糸ー輸出世界一への道ー」 として、諏訪を中心とする製糸業の発展と生糸の品質管理、それにより諏訪製糸が輸出生糸世界一となったこと、(4) 「大正の生糸」 において、蚕の一代交雑種により繭の品質が飛躍的に向上し、上質な生糸をとることができるようになり横浜市場に大量に出荷され「信州上一番」の銘柄が付けられたこと、(5) 「昭和戦前の生糸ー絹の靴下ー」 では、御法川緩速多条繰糸機により世界一の高格生糸が作出されるようになったこと、(6) 「戦後の生糸ー国内需要の転換ー」 では、自動繰糸機とそれを支えた管理技術により節、糸むらの少ない高級生糸生産へと繋がり、世界各国での生糸生産の中心となったと時代的な流れを述べられました。そして、(7) 「繰糸理論の他分野への展開」 では、製糸工程管理論が、機械システムの信頼性工学に応用されたこと、(8) 糸繰りはこれからも悠久に続く道、とまとめられました。

嶋崎先生の話術に引き込まれ、1 時間 30 分があっという間で至福の時間を過ごしました。

3) 「生物資源イノベーションと

新カイコ産業の創出」

東京大学特任教授・NPO 法人産学連携推進機構 理事長

妹尾堅一郎氏

先生には、平成 17 年の第 58 回の製糸

夏期大学で講演を頂き、今回で2回目となりました。

まず製糸夏期大学のすばらしさに触れられ、製糸夏期大学は教育としては極めて上質なラーニングコミュニティとして機能していること、互学互習（学び合い教え合う）、異分野交流（気づきときっかけ）、産業と文化の交流拠点、学術と実践の交流拠点であることなど先生の製糸夏期大学に対する想いを述べていただきました。

次に、先生は「イノベーションとは」、「生物資源の活用によるイノベーション」、「エネルギーとしての生物資源の活用」について述べられました。最後にこれからの新カイコ産業の創出について、衣から衣食住へのイノベーションを図るべきで、カイコ・糸の機能性を生かした開発、更にはリサーチツールとしての利用を図っていくことが一つの道とまとめられました。

これからのカイコ産業の進む方向に勇気を頂いた講演でした。

懇親会

第1日目の夕刻行われた懇親会には106名の皆様にご参加頂き、製糸夏期大学最後の懇親会を盛り上げていただきました。

主催者挨拶の後、来賓を代表して協賛者の岡谷市長今井竜五氏、後援者の岡谷商工会議所会頭宮坂勝彦氏よりご挨拶を頂き、協賛者の糸糸懇話会会長の小口洋太郎氏の乾杯で開宴しました。

今年行われた諏訪大社御柱祭のビデオ放映、木遣り、歌、踊りで盛り上がり、楽し

いひとときを過ごしました。最後に（財）大日本蚕糸会会頭高木賢氏の万歳で閉宴としました。

第2日目講演(7/23 午前)

4)「わが国蚕糸業の発展を支えた技術開発」 （独）農業生物資源研究所理事

新保 博氏

明治以降のわが国蚕糸業の発展を支えた技術開発として、(1) 外山亀太郎博士の提唱した一代交雑種の利用があり、民間業者により瞬く間に普及し、今強く求められている産学官連携の良い手本となったこと、(2) 一代交雑種の普及により雌雄鑑別が蚕種を製造する上で重要な作業となり、その方法が種々開発され、最近作出された雄のみの蚕品種の実用化につながったこと、(3) 低コスト人工飼料育と広食性蚕品種が開発され、これが大学や研究所における様々な研究の進展に大きく貢献したこと、最後にこれからのカイコの新しい産業利用として遺伝子組換えカイコの展望について述べられました。

一つ一つの養蚕技術の蓄積がわが国の蚕糸業の発展に如何に貢献したか、そしてその技術を継承していかなければならないという想いを強くした講演でした。

5)「きものからのメッセージ」

きもの文化研究家・株式会社秋櫻舎

代表取締役社長 中谷比佐子氏

永年女性誌の編集記者として、天と地の恵みと人の知恵からきものが生まれる姿を

追って全国の絹織物産地を訪れていたという自己紹介がありました。ある土地を訪れた時に、きものを着たことがない人がどうしてきものことがわかるのかと言われ、それ以来 40 年きものを着続けているそうです。

講演では、きものの形と筋肉の活性化、絹と健康について述べ、「きものは日本の文化そのもの。このようなきものという形の衣服を誕生させた日本人の知恵がこれからの世界に生かされる時代になってきます。岡谷は絹を日本全国、いや世界に広げた町です。この町できもののすばらしさをお話できたことは幸せ。」と話されました(写真4)。

生活の中にきものが常にあるからこそ語れる言葉の数々を頂きました。



写真4 講演風景 中谷比佐子先生

6)「岡谷の製糸を語る」

共栄工業株式会社取締役会長・NPO 法人シルク文化協会理事長

吉澤 英三氏

養蚕農家に生まれ、小学校のときから蚕飼いの手伝いをし、学校では養蚕・製糸の

教育を受け、戦後岡谷の製糸工場に就職し、製糸の現場を 30 年、製糸経営を 10 年経験し、昭和 59 年から精密板金事業に転換して 24 年になるとのことです。

今の金属加工業は加工機械をメーカーから購入し、注文をもらって加工し次の月に入金という経営状態で、それに比べ相場で変動する製糸業の経営が如何に難しかったか、そして、この厳しい製糸業によって岡谷を世界一のシルクの町に築き上げた先人の偉大さ、さらに養蚕・製糸が如何に日本という国づくりへの貢献してきたか、について述べられました。

製糸業の現場で永年携わった人でないと語れない熱気溢れた講演で、製糸夏期大学の最終を飾るに相応しい内容でした。

見学会

2 日目 (7/23) の 12:45 から見学会を行いました。65 名の参加を頂き、マイクロバス 2 台で、岡谷近代化産業遺産を伝える会のメンバーの説明のもと、農業生物資源研究所 生活資材開発ユニット、市立岡谷蚕糸博物館、山一林組事務所（岡谷絹工房）、照光寺蚕霊供養塔、重要文化財旧イチャマカ林家住宅（製糸家林国蔵の居宅）、片倉組垣外（かいと）製糸事務所、初代片倉兼太郎生家を見学しました。

製糸夏期大学では平成 6 年の第 47 回から見学会を始めましたが、農業生物資源研究所 生活資材開発ユニットの見学はこれまで行ってきませんでした。今年度末でつくばへ移転ということになり、是非見学さ

せて欲しいとの要望を頂き、私共の施設を案内しました。

片倉組垣外製糸事務所は、現在中央印刷株式会社の事務所として使用されていますが、その外観（写真5）と事務所の応接、2階の大広間を見学しました。当時演芸会や集会を行ったという洋式の広間です。そして、世界のシルクエンペラーと言われ、世界に冠たるシルク王国築いた初代片倉兼太郎生家を見学しました。自らは常に質素な生活をし、「質実剛健」を家訓にしていた様子を知ることができました（写真6）。

今回見学した個所は、平成19年に経済産業省が認定した岡谷市内の近代化産業遺産15ヶ所のものであり、参加者は感銘深



写真6 片倉兼太郎生家
く岡谷の歴史に浸っていました。

記念誌の刊行

以上報告した事業の他に、記念誌「製糸夏期大学63年のあゆみ」(311頁)を刊行



写真5 見学会 片倉組垣外製糸事務所外観



写真7 記念誌「製糸夏期大学 63 年のあゆみ」

しました。内容は主催者及び各界からの挨拶、製糸夏期大学 63 回最終に寄せて（14 名）、製糸夏期大学 63 年を振り返って、記念寄稿から構成されています。記念寄稿には 38 名の皆様から玉稿をお寄せ頂きました。（写真 7）

おわりに

昭和 23 年から 63 回に亘って開催されたこの伝統ある製糸夏期大学は、学会等の研究発表の場とはその趣を異にし、蚕糸業界で問題となっている点を幅広い角度から解決していく場として、また研究者・技術者の意見交流の場として、その役割を果たしてきました。シンポジウムや講演後の質疑応答の場では口角泡をとばし、夏の暑さ以上の熱い議論が行われてきました。若手の研究者や技術者では製糸夏期大学で講演を依頼されることは名誉なことであり、そ

のことが一つの飛躍の契機になった・・・など、そんなお言葉も沢山いただきました。それ程、この製糸夏期大学は価値あるものとして、評価を頂いてきました。

これまで延べ 1 万人を超える皆様が夏のこの時に岡谷に集い、議論を交わしお酒を飲み交わし旧交を温めては再会を誓い、明日へのエネルギーの糧としてきたこの夏期大学を今回で閉じたことは主催者として残念でなりません。

製糸工場が全国で 4 工場のみになってしまった現在、製糸技術者・研究者も少なくなり、技術継承することすら困難な状況になってしまいましたが、世界に冠たる技術を何らかの形で継承して行かなければならないと思います。また、全国には蚕糸・絹業を専業でされている方以外に、シルクで染織活動をされている方、サークル活動をされている方、地域で新たに養蚕に取り組もうと考えている方、カイコで学習活動をされている方などシルクに想いを寄せている方が多くいます。製糸夏期大学で培ってきた専門的な技術レベルには程遠くても、その技術を守り、新たに形に脱皮することも視野に入れながら、今後の展開を図っていく必要があると思います。

永年この製糸夏期大学を育て、見守り、ご指導・ご支援・ご協力頂きました総ての皆様にご感謝申し上げます。

たかばやし ちゆき
製糸技術研究会長

1 級の合格者の合格率は 3%の難関だが、その価値は大きい きもの愛好家に定着 きもの文化検定 4 年間に 28,813 名の受験者

社団法人 全日本きもの振興会 事務局

平成 18 年度より「きもの愛好家」や「きもの業従事者」の皆さんを対象に実施しております「きもの文化検定」は、本年度で 5 年目を迎えます。

「きもの」は、原材料の繭・生糸、麻や綿花といった農業生産の技術と知識、紡績や染織といった工業面での技術の知識、染織でのデザインといった美術的知識、歴史や生活といった文化面の知識、着装時のテクニックや美的センスなど様々な技術と知識の総合で一つの「きもの文化」を形成しています。

きもの文化検定は、この「きもの文化」をより多くの皆さんに学んでいただき、理解を深め、試験を通じて理解度を一定の基準により測り、励みとすることで、より「きもの」に親しんでいただくことを目的に実施しています。

平成 21 年度受験者 5,653 名

今年で 5 回目を迎える「きもの文化検定」



(写真 1) きもの文化検定受験風景

のこれまでの 4 年間の実績は、受験者の延べ総数で 28,813 名となっています。

平成 21 年度受験者延べ数は 5,653 名でした。各クラスの受験者は、5・4 級 1,846 名、3 級 1,410 名、2 級 1,345 名、1 級 1,052 名という結果でした。

第 1 回の試験が実施された平成 18 年頃は「検定ブーム」といわれていましたが、昨今は「検定ブームは去った」とか「きもの産業の低迷」などといわれる中で、この

実績は評価されるものであるとの意見も多数あります。

また、試験会場も東京・京都・名古屋・大阪・福岡の5会場が始まった初年度から、昨年の第4回目は、北海道から沖縄まで全国で15会場での実施に加えて、専門専修学校での実施校が5校となりました。

これも、受験はしたいが、近隣に受験会場がないという理由から受験を諦めていた、きもの愛好家の皆さんの熱望に応えた結果によるものです。

1級の合格者 36名

きもの文化検定には、5・4級の初級クラスから最上級の1級までの5段階の各クラスがあります。前回の試験から最上級の

1級試験が始まり、受験者の関心は一層の高まりを見せました。最上級ということもあり、1,052名の受験者に対して合格者は36名、合格率は3%という厳しさでした。

この合格率に受験者からは、難しかった・厳しすぎる等の意見が多数寄せられましたが、「さすがに1級となればこのくらい難しいのが当たり前だ」との声も多く寄せられました。

去る2月27日には京都において、この1級合格の皆さんに一堂にご来場いただき合格者表彰式と記念パーティーを行いました。参加された方々は、それぞれにこの4年間の苦労や勉学の方法などを語り合い、今後も一層の努力をしたいと語り合っていました。



(写真2) 男性も受験するきもの文化検定



(写真3) きもの文化検定合格者の表彰・記念パーティ

充実した教材とセミナーの開催

きもの文化検定の教科書として、公式教本Ⅰ「きものの基本」と公式教本Ⅱ「きもののたのしみ」が発行されています。各級の試験問題はこの教本から90～70%が出題されます。(1級のみきものに関する全ての範囲から出題。)この教本はきもの文化検定の教科書としてのみ利用するだけでなく、広くきものの知識を習得するのに役立つよう編集されています。さらに、きもの文化検定推薦図書として、「きもの文化検定問題集」、「きもの用語の基本」、「きものの文様」、「帯の基礎知識」等が出版されています。

さらに、受験対策として開催される「きもの文化検定公式受験対策セミナー」も毎年人気があり、受験者が多数参加していま

す。(詳細はきもの文化検定事務センターにお問い合わせください。)

「きものを知る」ことできものの需要増進に

きものの需要が低迷しているといわれて久しいですが、この期に、きものファンを増加させているこの「きもの文化検定」が果たしている役割は多大であると自負しております。きもの文化検定の上級合格者が、「きものを知る」という知的欲求をより満足させることで、コアなきものファンが「きもの愛好家」として育成されます。この方々がきもの愛好のオピニオンリーダーとして広範な役割を果たしてくれるでしょう。

本会では、一層の受験者の増加と「きもの愛好家」の育成を継続していくために努力をしていく所存です。

第5回きもの文化検定実施概要

第5回のきもの文化検定は次の通り実施されます。

試験日：平成22年10月17日 日曜日

試験会場：東京、京都、大阪、名古屋、福岡、札幌、仙台、群馬県、金沢、静岡県、岡山、広島、松江、高松、鹿児島、沖縄県の全国16会場

検定内容：5・4級、きものに関する一般常識・初級知識。3級、きものに関する中級知識。2級、きものに関する上級知識。1級、きものに関する専門知識。

試験方法／合格基準：5・4級、マークシートによる四肢択一方式で60分・100問以内(5・4級は同一問題)／5級は60%以上の正解で合格。4級は70%以上の正解で合格。3級、マークシートによる四肢択一方式で90分・100問以内。／70%以上の正解で合格。2級、文言選択・記述方式で90分・100問以内／70%以上の正解で合格。1級、文言(語彙)記述・文章記述方式で90分・100問以内。／70%以上の正解で合格

受験申込締切日：平成22年9月3日(金)

受験料：5・4級、4千円。3級、5千円。2級、8千円。1級、9千円。

受験申込：インターネットからの申込 /<http://www.kimono-kentei.com>

郵送による申込 / インターネットから申込書をダウンロードするか、きもの文化検定事務センター(〒600-8009 京都市下京区四条通り室町東入 京都産業会館5階 社団法人全日本きもの振興会内)に請求してください。

ジャパンシルクセンター内(東京・有楽町)でも申込書を配布しています。

なお、詳細については、きもの文化検定事務センターにお問い合わせください。

電話 075-221-2334

国内産地情報

絹織物産地の概況（7月）

織物生産は全体的に持ち直しているものの、小売市場は相変わらず鈍い

<原糸>

中国生糸市場は春繭が大幅な減産となり、中国経済の急成長から製糸工場の人件費も 20～30%以上の上昇を示し、生糸価格は日々上昇している。しかし、我が国の織物の受注は鈍く新規商談が少なく、安い原料には積極的に手当てされているが、全体的な原料手当ては現物当用買いが続いている。

<白生地>

- ・丹後の縮緬生産は、前年対比 109.5%の増産であるが、新規の商談が少なく、糸価高騰による値上げ要請で量が流れるかどうか心配されている。
- ・長浜の生産は、前年比 110.5%で変り織を中心に引合いが順調である。先行きの原料が強含みであることから集散地の買付けが進んでいる。
- ・五泉は、主力の駒紵に受注が入り前年比 8.3% 増と健闘している。
- ・福島は、和装、スカーフ地共に悪い。在庫は増加傾向。
- ・小松は、和装は悪いが、洋装は薄地織物が相変わらずの供給不足で注文を捌くのに大変である。
- ・福井は、広幅羽二重、小幅羽二重共に量は昨年より増えている。
- ・群馬・埼玉は、厳しい商況に変わりが無いが、埼玉では昨年実績を大幅に上回っている。

<先染織物>

- ・西陣の帯は、大手産地問屋の地方売出しがあったが前年比 70%と聞いている。売行きは値頃の派手もののみであった。
- ・博多は、紋八寸を除き、他の商品は大幅に減産となっている。
- ・十日町は、付け下げ、振袖が大幅な増産で他商品の減少をカバーしている。
- ・米沢は、和服の生産は市場の荷動きが鈍く減産調整。服地は小口の生産が主となって来ている。
- ・山梨は、服地はサンプルは多いが、他は少ない状況が続いている。ネクタイは一部に多少の荷動きがあったが期間が限られて全体としてはすこぶる少ない。
- ・西陣のネクタイは、端境期となっている。大手紳士服店など、相次いで国産ネクタイ離れが加速しており、販路が縮小している。

*（社）日本生糸問屋協会月報 22.8.12 第 737 号による。

海外シルク情報

中国

中国シルク業界幹部が分析する最近の繭糸価格の急騰要因

昨年末から本年上半期にかけての中国国内の繭と生糸の価格高騰は、目覚ましいものがあり、嘉興シルク取引所でのこれまでの最高価格として乾繭価格が4月29日に95.1元/kg(1,331円/kg)、同生糸価格は5月4日に280.5元/kg(3,927円/kg)が出現した。

このため、監督官庁商務部(国家繭糸弁公室)は、約3年前に発動した国家備蓄制度の買い入れ生糸の一部放出を行ったとのことであり、6月上旬現在、乾繭価格は83～93元/kg、生糸価格は245～275元/kgで推移している。

このような今年上半期の異常なシルク価格の上昇を招いた要因・原因を中国シルク業界幹部が次のように分析しているので紹介する。

- 1、ここ数年来、繭糸価格は低く過ぎる状況下で、一昨年と昨年の2年連続して繭生産は大幅に減産したこと(2008年度は対前年比15.9%、2009年度は対前年比17.8%減産)。
- 2、2006年以来、中西部(広西壮族自治区など)産地の製糸企業の繰糸能力が飛躍的に増大し、市場ではこれが生糸需要としてとらえられたこと。(一方、東部産地の製糸企業の繰糸能力はこの間、同程度減少し、全国レベルでの実際の総製糸能力は増大しているわけではない。)
- 3、本年当初、雲南省、広西壮族自治区などの南部の繭主産地では、干ばつの天災被害に見舞われ、繭生産に影響を及ぼし、原料繭の供給に不安感を市場に与えたこと。
- 4、人為的・投機的要因から、価格がつり上げられたこと。
- 5、生繭の収納秩序体制に混乱が発生し繭価格が異常につり上げられたこと。現在、生繭の購買は資格認定制度があり、本年のように繭価格が高い時ほど、様々な無資格の生繭購買業者が暗躍した様子であり、買い入れ制度が乱れたこと。

中国の本年度春蚕期の繭生産状況

中国の春繭生産は、4月初旬、南方地区からスタートし、主産地での生産・収繭作業は6月に集中的にピークとなり、7月初旬には基本的に終了する。本年当初において、昨年末頃から続いている国内繭糸価格の上昇に伴い、一部の主産地では桑園を新・改植し、蚕種掃き立てを増やし、増産する機運であった。

中国随一の繭生産地である広西自治区農業庁の発表統計によれば、同自治区の桑園面積は15万ムー（＝1万ha）新たに改植され、これにより春繭の蚕種掃き立て量と繭生産量はそれぞれ前年より25%、27%増加させる計画であった。

しかし、昨年（2009年）の10月以来、今春まで西南地区においては気象災害（干ばつ）があり、この方面の5つの主要繭産地（広西自治区、四川省、雲南省、重慶特別市、貴州省）では、その生産動向が注目されていたところである。

この結果、産地別にみると、雲南省と貴州省は干ばつ被害が激甚であり、春繭生産は前年比約2割減産となり、四川省と重慶特別市は干ばつ被害は軽微で繭生産に影響なし、広西自治区は、約4割の桑園が干ばつの影響を受けたものの、全体的には被害は軽微で繭生産にそれほど被害はなかった模様である。従って、中国全体の春繭生産量は、前年に比べ同程度かまたは若干増産気味に推移しているとの見方が関係者の中で多い。これは、各産地の生繭買上げ価格が前年より60～80%高く、史上最大の繭買い上げ価格となっていることが影響している。ちなみに、各地の農家からの生繭買上げ価格は、江蘇・浙江産繭30～36元/kg（405～486円/kg）、四川・重慶産繭25～27元/kg（338～365円/kg）、広西・広東・雲南産繭30元/kg（405円/kg）前後となっている。

＊日本生糸問屋協会月報 22.7.12 第736号及び 22.8.12 第737号による。

生糸の粗製乱造と洋式製糸器械の導入

シルク博物館

元部長 小 泉 勝 夫

1 海外の信用を失った粗製乱造の生糸

外国人の横暴な商法ばかりでなく、日本人の中にも外商に対して粗製乱造の生糸を販売する者が多くおり、諸国から強い非難を浴びるようになりました。

日本人同士であれば、言葉の壁の問題もなく、顔なじみであったり、気心知れた相手との取引等なので、問題を起こすようなことは、ほとんどありません。

ところが、相手が外国人ともなれば、行き当たりばったりの全くでたらめな取引を行う者が現れ、問題を引起すようになりました。

日本人商人の中には、開港後3～4年ごろから粗製乱造の悪質な生糸を取引するようになり、その手口もだんだんと巧妙さを増していきました。

その悪質な手口の事例を、次に紹介しましょう。

＊繰糸能率を上げるため、「ブツツケ糸」を造り取引しました。切断した糸を繋^{つな}げずに巻き取り、総造^{かせづく}りをしたので、切断場所にくると糸口が出てきません。

＊折返糸^{おりかえしいと}のごときは、外側の見える部分は外国人好みの細繊維度の糸にし、内部ほど繰糸能率のあがる繊維度の太い生糸や不良糸

を餡子^{あんこ}に詰め^{かつ}た括にして取引する者もありました。

＊繰糸能率や総造^{かせづく}りの能率を上げるため、「リャン取り糸」「二つ取り糸」とよばれた糸繰り方法で、手荒く繰糸した粗製生糸や2枠の生糸を1総分に巻き取り、糸口の出ない不良総糸を造り販売しました。

＊生糸の総や包みに増重加工を施して、生糸重量をごまかして取引する者もありました。

横浜に運び込まれた糸は、主に提糸^{さげいと}、島田糸、折返糸^{てつぼういと}、鉄砲糸^{ながていと}、長手糸などでした。中でも提糸、折返糸、鉄砲糸の3種類が特に多く持込まれてきました。

この中で、最も不正行為の行われた生糸が提糸でした。提糸には紙を巻いた元結^{もとゆい}部分があります。この紙に白砂^{のり}を糊付けする・石灰を漉き込む・鉛や鉄片を巻き込むなどの不正な増重処理をしました。生糸にニガリや砂糖を付着させて増重することも行われました。

生糸の包みの中に、砂・鉛・セメント・古釘やこうもり傘の骨片などを隠し入れ、増重した事例もありました。

＊不良糸を混入させた取引も行われました。原料代を安くするため、上繭の中に

玉繭（同功繭）を入れて、繰糸した節の多い不良糸を売りつけることなども行いました。

このように日本人も悪質な取引行為をしましたので、国際的信用を失い、善良な日本人の生糸生産者や商人の足をすくうことになってしまいました。

足元をすくわれた事例として、二本松製糸会社（現在の福島県二本松市にあった会社）の米国進出についてふれてみましょう。

二本松製糸会社社長の佐野理八は、1876（明治9）年12月、折返糸を改良して米国に試売し、優良な生糸として真価が認められました。翌年には勸業局の保護を受けて、自社の折返糸娘印生糸を同国に大量に輸出し、直輸出の基盤を築きあげようとしておりました。

そこで、自社の生糸を販売するために、米国に支店を置き、営業をはじめましたところ、自社の生糸が、いかに優良生糸であっても、福島・宮城の一部業者が、不良な折返糸を造り輸出したため、たちまち汚名高い折返糸となってしまい、営業を続けることが難しくなり、支店を閉じ引上げてしまいました。

2 わが国への洋式製糸器械導入

第1号器械は前橋藩営製糸所へ

横浜開港（1859年）によって生糸輸出が盛んになりだすと前述のように、わが国からの粗製乱造の生糸が海外に出回るようになり、たちまちのうちに諸国の信用を失い、輸出は停滞、生糸価格は破格の安値となっていました。

明治新政府は、生糸や蚕種の粗製乱造防

止に努めますが、なかなか思うように改善はされませんでした。

このような生糸貿易の低迷する中で、生糸品質改善へ向けて大きな転機となったのが、わが国への洋式製糸器械と製糸技術の導入でありました。

わが国への洋式製糸器械導入の第1号は、よくご存知の官営富岡製糸所（群馬県富岡市）だろうと思われる人が多いかもしれませんが、これよりも早い時期に、上州（群馬県）前橋藩に洋式製糸器械が導入されました。これがわが国への導入器械第1号なのです。

それでは前橋藩営製糸所建設に至る由来などについて触れてみましょう。

はやみけんそう
速水賢曹（現埼玉県川越出身、前橋藩士、後の官営富岡製糸所所長）は、1869（明治2）年9月から翌年4月まで、前橋藩の命令を受けて横浜に出向き、諸国との生糸貿易の調査を行い、藩営の生糸販売店を横浜に開設しました。

速水は横浜で生糸貿易の調査を行なっている時に、偶然にもスイス国領事館で領事からロンドンの生糸相場表を見せられ、日本生糸はフランスやイタリーの生糸価格の半値という格差にビックリし、何としても洋式の製糸技術を導入し、品質改良をしなければいけないと痛感しました。

早速、藩主松平直克に図り、1870（明治3）年、スイス人の製糸技術者ミュラー（イタリーで13年間製糸教師を歴任）を雇入れ、同年6月、前橋町細ヶ沢（現群馬県前橋市住吉町）で木製洋式製糸器械3台を造り繰糸を試みました。同年9月には南勢多郡岩神村（現前橋市岩神町）に12台を設置し

繰糸を始めました。

前橋藩営の製糸所が開設されると、地元上州をはじめ、作州津山（岡山県）や小田（岡山県）、熊本、信州諏訪・上田（長野県）などの人々が技術の習得に訪れています。このように、前橋藩営製糸所は国内各地へ洋式製糸技術を発信した最初の工場なのです。

3 民営による洋式製糸器械導入

前橋藩営製糸所に次ぎ、わが国第2号の洋式器械を導入しましたのが、民営の東京築地入舟町に創設された小野組の築地製糸場（図4）です。

小野組は大番頭であった古川市兵衛（後の足尾銅山経営者）の発案を受入れ、前橋藩営製糸所の器械を製作指導したスイス人の製糸技術者ミュラーを雇い、1871（明治4）年8月（旧暦）にイタリー式60人繰りの製糸を始めました。

しかし、小野組築地製糸場は長続きしませんでした。1873（明治6）年6月に閉場となり、その翌年には小野組は破産をし

てしまいました。製糸工場は官没となり、民間へ払下げられ、この製糸器械は信州諏訪に移されました。諏訪ではこうした洋式製糸器械の導入によって、後段で述べる繰糸能率の非常に良い独自の諏訪式繰糸器械を産み出すことになりました。また、ここで働いていた工女たちは、福島県二本松（現二本松市）に新設された二本松製糸会社（社長佐野理八）など数箇所の製糸場に配属され、イタリー式製糸技術を東北地方に広める発端となりました。

4 官営製糸場の建設

明治政府は、1870（明治3）年、生糸の粗製乱造防止と品質向上を目指して、洋式の製糸技術を導入し、官営の製糸場を建設することにしました。この建設に至った経過などをたどってみましょう。

日本生糸の粗製乱造に頭を痛めたイタリーやイギリスの公使館は、こうした日本の蚕糸業の実態を知るために、外交官特権を行使し、蚕糸関係の専門家を同行して、上



第4図 小野組築地製糸場（「東京築地舶来ぜんまい大仕掛けきぬ糸を取る図」
猛斎芳虎画）シルク博物館所蔵



(写真 14) 富岡製糸場
「大日本蚕業家名鑑 全」(大正7年再版)より引用

野や信州など国内の主要蚕糸業地帯の視察調査を行いました。

イギリス公使館の場合をみると、書記官アダムスが1869(明治2)年に上州・信州へ、翌年にも上州・信州・越後などへ蚕糸関係の専門家を同行して40日にも及ぶ視察を行い、視察の都度、本国へ日本の蚕糸業の実状と問題点・改善点などの報告を行うと共に明治政府に対しても洋式器械製糸の導入などについての改善点を申し入れました。蚕糸業を殖産興業の主要施策として推進しようとしている明治政府にとって、このような外国公使館からの申し入れは、無視することができなかったであろう。

官営富岡製糸場の建設に尽力した大蔵官吏の渋沢栄一(現埼玉県深谷市出身、1873年退官、以後実業界で活躍)の「蚕史 後編」(大塚良太郎著)に掲載されている談話を現代文に要約(筆者による)して次に紹介します。

「横浜の^{おらんだ}和蘭八番館館主カイセンハイメ

ルは、伊藤博文に、日本の生糸は粗造甚だしい。器械製糸工場を一つ建設して見本を示せば、生糸の質は向上し、お互いに利益が増大する。是非とも我々外国人に設立の許可をしてほしいと切望した。これに対して、伊藤は条約に抵触することを理由に断った。すると、カイセンハイメルは、それならば、我々が建設資金を出すので、日本政府が監督して製糸工場を建設してはどうかと、再度申し入れを行ったが、伊藤は、この申し入れも断った。伊藤にしてみれば、これほど外国人が器械製糸工場建設にこだわるということは、相当な利益があがること間違いなさだろうと判断した…」というような内容が記載されています。

伊藤は民部省・大蔵省に働きかけ官営製糸場の建設に向けて動き出し、政府は1870(明治3)年2月「官営製糸場設立の議」を決し、官営事業に取りかかりました。

建設にあたっては、1870(明治3)年にフランス人技師フランソワ・ポール・ブリュナ(以下「ブリュナ」という)を首長(指導者)として雇入れ、建設候補地の選定を行い、上州富岡(現群馬県富岡市)に決定しました。

ブリュナは、製糸器械購入のため翌明治4年正月フランスに帰国しましたが、7月には富岡に戻り、施設の建設に取り組みました。

製糸場の設計は、大蔵省が囑託として雇用した横須賀製鉄所船工兼製図工エドモンド・バステアンがあたりました。

建設工事は1871(明治4)年3月に着手し、翌年7月に竣工しました。

敷地総面積は1万5,608坪（約5万1,586㎡）あり、この中に繰糸場・貯繭場・繭乾燥場・貯水所等と工女宿舎・場員宿舎等を完備し、1872（明治5）年10月から操業しました。

ブリュナはフランスからの検査人2名、機械方（機械係）^{かた}・銅工方^{がた}・医師・土木絵図師（土木設計士）各1名、工女4名と共に製糸場の技術指導にあたりました。

このようにして建設に努力し、多くの日本人にフランス式製糸技術を指導した首長ブリュナは、1875（明治8）年に雇用満期となり帰国をしました。

富岡製糸場は、所期の目的である洋式製糸技術を習得する工女の養成や当工場を模範とした製糸工場を全国各地に建設する役割を果たしました。

しかし、所期の目的が達してくると、だんだんと企業性格を強めるようになり、1893（明治26）年9月、民間（三井）に払い下げられました。

その後、同製糸場は1902（明治35）年9月、原合名会社（原三溪経営の会社）に渡り、更に1938（昭和13）年には片倉製糸紡績株式会社（後の片倉工業株式会社）に譲渡されていきました。

太平洋戦争後も片倉工業株式会社によって操業を続けましたが、国内の蚕糸情勢の厳しさが続いていた1987（昭和62）年3月、操業を停止し、その後は同社によって大切に保存管理されてきました。

2005（平成17）年7月、当製糸場は国指定史跡に指定され、これを契機にすべて

の建物が富岡市に寄贈され、同年10月1日から富岡市の管理になりました。

富岡市は翌年、敷地を買取り、間もなく敷地は史跡に、創業当初の産業遺産群は重要文化財に指定されました。平成19年1月には「富岡製糸場と絹産業遺産群」としてユネスコ世界遺産の暫定リストに記載され、現在に至っています。

官営製糸場の建設は、富岡製糸場ばかりではなく、東京赤坂^{あおい}葵町鍋島屋敷に建設され、1873（明治6）年2月に操業した工部省直轄の勸工寮（「寮」は現在の省庁の局にあたる）赤坂葵町製糸場や1875（明治8）年に創設された開拓使所管の札幌製糸場（明治10年11月からは札幌紡織場）があります。

勸工寮赤坂葵町製糸場は、スイス人ミューラーの指導でイタリー式製糸器械を導入しました。この製糸場が操業すると、三瀧^{みづま}（福岡県）、小田^{ほくじょう}（岡山県）、北条^{ほくじょう}（岡山県）、敦賀^{つるが}（福井県）、山梨、長野、鹿児島、新潟などの要請で、工女の伝習と器械の製法等の指導を行い、イタリー式製糸技術を広く国内各地に普及する役割を果たしました。

国内では、明治はじめまで大量に出る屑繭や屑糸の加工方法を熟知していなかったもので、安く輸出をしていました。

ところが、1873（明治6）年にヨーロッパの蚕糸状況を視察して帰国した佐々木長淳は、日本でも外国で行っている屑糸紡績を行い、付加価値の高い糸にするように内務省に建言しました。この結果、官営の

紡績工場が各地に建設されるようになっていきました。

国は1875（明治8）年3月から新町駅屑糸紡績所の建設を行い、1877（明治10）年10月から新町紡績所（現群馬県高崎市）として操業をはじめました。

この他にも堺紡績所、愛知紡績所、広島紡績所（広島紡績所は未落成のまま民間会社に払下げ）など官営の施設が建設され開業されました。

5 各地で始まった器械製糸と紡績

上述の前橋藩営製糸所、小野組築地製糸場、官営富岡製糸場・赤坂葵町製糸場などは、洋式製糸技術を全国各地に広めたので「わが国の器械製糸産みの親」ということができます。

官営富岡製糸場のフランス式製糸器械や小野組築地製糸場・勸工寮赤坂葵町製糸場などのイタリー式製糸器械が全国各地に伝播し、器械の改良が行われ、だんだんと良質な生糸が横浜へ運ばれ、輸出されていくようになっていきました。

わが国で製糸業の最も発達した信州諏訪地方では、イタリー式とフランス式製糸器械を折衷し、独自の改良（特にイタリー式ケンネルを大型に改良）（ケンネル：繰糸工程で集緒器より上がってきた生糸を集緒器の上に設けた二つの鼓車で集緒器近くに戻し、集緒器から上がってきたばかりの糸



（写真 15）猪口造り
シルク博物館所蔵

と撚り合せ、生糸の抱合と脱水をしながら巻き取る方式をいう）を行って、生糸の走行切断を防ぎ繰糸能率の非常に高い諏訪式繰糸器械を開発し、全国に普及させました。

また、生糸の束装は、すでに記述（本誌2010年3月号No.11 参照）しましたように、産地によって大きく異なっており、取扱いが煩雑でしたが、明治10年ごろから官営富岡製糸場の束装を改良した「猪口造り」（写真15）が普及しはじめ、輸出しやすい生糸の荷姿に統一されていきました。生糸束装の改良は官営工場の大きな業績の一つといえましょう。

官営の紡績工場も民間に払下げられ、各地に紡績工場が創設されるようになっていきました。

このように、明治初期の洋式製糸技術・紡績技術の導入は、わが国の製糸業・紡績業を大きく発展させることになりました。

こいずみ かつお
シルク博物館 元部長

イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
群馬の絹と美しいものの展 「純国産絹製品展」 ～美しき日本の繭～	日本の繭・生糸の生産が一番多い群馬県内の高崎市で純国産絹製品展を開催し、関係生産者には蚕糸・絹業提携システムの理解を深めていただくとともに、一般消費者の方々に純国産絹製品の良さを知ってもらうこととしていきます。併せて、県内産地(桐生、伊勢崎)の参加を得て、広報機関、消費者に群馬の蚕糸・絹業の存在をアピールします。 〈入場無料〉	平成22年9月1日(水)～9月 6日(月)まで ※最終日は午後5時閉場	会場: (株)高崎高島屋6階催事場 (高崎市旭町45番地) 主催: (社)日本絹業協会 Tel:03-3214-1691 後援: 群馬県、高崎市、上毛新聞社、(財)大日本蚕糸会、(社)日本絹人繊維物工業会他
「日本絹の里大学」開校	今年も「日本絹の里大学」を開校します。 絹や蚕について専門家がわかりやすく解説します。 ご一緒に勉強しませんか。 ◇受講料(教材費含む): 3,000円 ◇募集人数: 先着30名(事前に要登録)	平成22年9月11日、9月25日 10月16日、10月30日、11月13 日の各土曜日 各開講時間: 13:30～15:40	会場・主催・お問い合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinunosato.or.jp
絹の郷シンポジウム & 現地見学会 ～繭・生糸現場への理解と 我が国絹文化の継承に向けて～	全国一の繭・生糸生産を誇る「群馬」では、蚕糸業の現状や国産繭・生糸の希少性及び純国産絹製品への理解を深め、新蚕糸対策を推進することを目的に「絹の郷シンポジウム & 現地見学会」を開催します。 【1日目】 〈シンポジウム〉14:00～18:00 ○基調講演: 日本の絹文化を守り、伝えていくために(仮題) ○話題提供 ○「純国産絹製品」展示・商談会 【2日目】8:00～16:00 〈養蚕・蚕糸現地見学会〉見学コース(予定) 養蚕農家(高崎)→県立日本絹の里→碓氷製糸(昼食) →富岡製糸場 ◆参加費2,000円(現場見学会費(昼食・観覧料・保険料) ※シンポジウムのみの参加者は無料 ◆定員150名 ※事前登録が必要	平成22年9月16日(木)～ 17日(金)	シンポジウム会場 群馬県庁2階ビクターセンター (群馬県前橋市大手町1-1-1) 主催 群馬県、(財)大日本蚕糸会(予定)、 碓氷製糸農業協同組合 お問い合わせ 群馬県農政部蚕糸園芸課蚕糸係 Tel:027-226-3092 Fax:027-243-7202 e-mail:sanshien@pref.gunma.jp
シルク・サミット2010in岡谷	シルク・サミットは、それぞれの地域で養蚕・製糸・製織等の生産活動をしている方や博物館・資料館で地域の方と一緒に活動している方、絹工房等の地域活動をしている方々が相互に意見交換や情報・技術の交流を目的として毎年秋に開催しており、今回は長野県岡谷市で開催します。 〈日程〉 10月15日 午後 基調講演・特別講演・活動事例報告 夕刻 懇親会 10月16日 午前見学会(岡谷近代化遺産めぐり、諏訪工業メッセ)	平成22年10月15日(金)～ 16日(土)	会場: 長野県岡谷市(岡谷駅東側) テクノプラザプラザおかや Tel:0266-21-7000 主催: (独)農業生物資源研究所・岡谷市・岡谷市教育委員会・シルクサミット2010in岡谷実行委員会 共催: (財)大日本蚕糸会 申し込み／問合せ先 シルク・サミット事務局((独)農業生物資源研究所 生活資料開発ユニット内) Tel:0266-22-3664 FAX:0266-22-3094 e-mail:silksummit@nias.affrc.go.jp

登録コーディネーター一覧

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーター登録者一覧（五十音順）

平成 22 年 8 月 12 日現在

登録番号	氏 名	所属・役職名
21-026	青 山 繁	株式会社二葉きもの営業部
21-021	秋 山 徹	
20-067	秋 山 眞 和	(株)あきやま綾の手紬染織工房主宰
20-013	阿 部 末 男	岩手県養蚕活性化推進協議会代表
20-036	阿 部 雅 一	株式会社マルシバ
21-003	天 野 三 吉	富士吉田織物協同組合開発部長
21-015	新 井 園 恵	新啓織物
21-014	新 井 教 央	新啓織物
21-011	碓 山 俊 光	西陣織工業組合専務理事
20-006	石 田 克 己	二十一世紀の絹を考える会世話人代表
22-002	井 上 英 夫	有限会社いのうえ代表取締役
19-014	今 村 幸 文	碓氷製糸農業協同組合製造部長
21-029	内 海 康 治	有限会社内海呉服店きもの千歳屋代表取締役
20-041	梅 田 幸 平	有限会社幸和代表取締役
21-023	江 口 純一郎	日本刺繍紅会養蚕・繰糸担当
19-010	遠 田 寿 之	松岡株式会社監査役
20-048	大 野 章	勝山織物株式会社
20-063	大 竹 史 朗	有限会社大竹商店代表取締役
22-014	岡 喜久男	群馬県農政部蚕糸園芸課蚕糸係長
21-001	岡 田 心 平	株式会社あきやま常務取締役
22-001	奥 澤 武 治	奥順株式会社専務取締役
21-007	小 倉 進 吾	株式会社小倉商店
20-044	小此木 エツ子	多摩シルクライフ21研究会代表
22-013	狩 野 寿 作	群馬県農政部蚕糸園芸課絹主監
20-037	角 谷 美和子	ハクビ京都きもの学院学院長
21-004	柏 木 幹 弘	有限会社カシワギ代表取締役社長
20-049	勝 山 健 史	勝山織物株式会社専務取締役
20-030	金 井 史 郎	東北撚糸株式会社代表取締役社長
22-008	河 田 明 芳	りょうぜん天蚕の会
20-043	河 田 芳 宏	河芳織物有限会社代表取締役
20-020	北 川 幸	株式会社伊と幸取締役社長室長
20-032	北 丸 豊	豊栄繊維株式会社代表取締役社長
19-019	木 下 幸太郎	株式会社マルシバ代表取締役社長
22-016	草 間 幸 男	株式会社高原社蚕種製造課長
19-013	小板橋 広 行	碓氷製糸農業協同組合参事
20-061	小 口 和 興	株式会社帛撰代表取締役
21-002	小 林 嘉 朗	有限会社コバヤシ代表取締役
20-012	昆 野 和 夫	前いわい東農業協同組合養蚕農家指導担当
20-045	境 京 子	多摩シルクライフ21研究会
21-025	酒 井 進	有限会社酒井代表取締役
20-074	佐々木 祥 一	株式会社川島織物セルコン

（注）標記名簿は公表を了承された方のみ掲載しております。

登録番号	氏 名	所属・役職名
20-001	笹 口 晴 美	有限会社ミラノリブ代表取締役
19-012	佐 藤 信 行	松岡株式会社常務取締役
20-004	佐 藤 幸 香	「香染」工房主宰
21-016	澤 村 浩 正	多賀町商工会主幹
19-011	渋谷 健 治	松岡株式会社シルク事業部課長
20-040	清 水 武 彦	(有) シンセイ (信州繭ブランド織物振興会会長)
22-019	下 村 輝	下村ねん糸
22-003	下 田 実	前新岩手農業協同組合
22-004	鈴 木 政 利	西川産業株式会社商品第一部ふとん2課課長
21-030	関 根 實	有限会社関根商店代表取締役
20-018	都 木 裕一郎	ニッケン通商株式会社生糸販売担当責任者
19-017	高 橋 耕 一	株式会社宮坂製糸所専務取締役
22-015	高 橋 尚 義	京丹後市企画総務部企画政策課課長補佐
20-075	高 橋 弘 直	大門屋店主
20-071	竹 下 和 利	有限会社寿光織本舗取締役社長
20-076	田 中 隆	田中種株式会社代表取締役
20-065	田 中 裕 司	株式会社布四季庵ヨネオリ代表取締役
20-014	俵 武 司	株式会社千總友仙工場代表取締役
21-010	知 識 勝 博	宮崎県中部農林振興局営農相談員
20-005	土 井 芳 文	絹小沢株式会社業務推進役
21-008	道 明 三保子	文化女子大学文化ファッション研究機構客員研究員
20-077	堂 本 正	田中種株式会社営業部長
21-012	富 田 篤	株式会社富田染工芸代表取締役
22-018	富 田 克 衛	富田蚕種製造所代表
20-053	内 藤 吉 雄	元艶金興業株式会社
20-058	永 岩 則 子	長崎絹業探究所所長
20-060	中 尾 浩 祥	株式会社丸万中尾取締役
21-006	中 澤 豊	株式会社山桜代表取締役社長
21-027	長 島 誠	長島繊維株式会社
20-057	中 野 豊	長崎絹業探究所製作担当
20-016	西 尾 仁 志	有限会社西尾呉服店代表取締役
21-022	似 内 久 俊	
19-015	萩 原 和 憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
22-009	橋 本 正 行	秩父織物協同組合
19-018	服 部 芳 和	有限会社織道楽塩野屋代表
22-005	濱 田 俊 哉	西川産業株式会社商品第一部ふとん2課
20-038	原 田 晶 三	アンファンテリブル代表
20-008	兵 頭 眞 通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
20-007	深 田 祥 二	株式会社深田商店専務取締役
22-006	福 田 喜 重	株式会社福田喜代表取締役
20-039	福 田 隆	株式会社龍工房代表取締役

登録番号	氏 名	所属・役職名
20-050	福 地 圭 一	丸八生糸株式会社
19-023	福 永 吉 穂	江一株式会社原糸事業部長
20-046	藤 井 浩 一	藤井絞株式会社取締役社長
20-069	藤 井 美 登 利	川越むかし工房代表
20-051	舞 鶴 一 雄	株式会社西陣まいづる代表取締役社長
21-013	眞 浦 正 徳	山梨県中小企業団体中央会応援コーディネーター
21-019	前 田 市 郎	株式会社前田源商店取締役
20-010	前 田 進	有限会社スリーエスプランニング代表取締役
20-047	松 井 慎 一 郎	加賀グンゼ株式会社代表取締役
20-028	松 澤 清 典	松澤製糸所
20-033	松 本 信 孝	有限会社ハック代表取締役
22-012	南 祐 和	株式会社夢おりの郷取締役社長
20-022	宮 忠 光	株式会社伊と幸取締役副部長
19-016	宮 坂 照 彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
22-017	宮 本 奉 三	上田蚕種株式会社取締役蚕種課長
20-021	本 橋 伸 夫	株式会社伊と幸取締役営業本部長
22-007	柳 沼 泰 衛	りょうぜん天蚕の会会長
20-078	藪 垣 茂 仁	田中種株式会社仕入担当
20-068	山 口 治 之	丹波生糸株式会社代表取締役
21-018	山 崎 泰 洋	山崎織物株式会社代表取締役
22-010	横 山 敬 司	秩父織物協同組合（秩父植物染織工房株式会社）
20-073	渡 邊 健 次	渡文株式会社代表取締役専務

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 22 年 8 月 10 日現在

表示者登録番号	企 業 名	主な絹製品名
1	株式会社千總	後染反物（訪問着・付下・色無地、振袖）、胴裏地
2	株式会社織匠田歌	先染反物、先染帯
3	有限会社ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ソックス、ショール、ストール、スカーフ、ネクタイ、ニットタイ、ベスト）
4	株式会社丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）
5	株式会社坂本屋	後染反物（色無地）、胴裏絹（灰汁浸け加工）
6	有限会社平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
11	株式会社銀座もとじ	白生地、後染反物、大島紬、結城紬、染織作家製品、八掛、御召、帯地
12	河瀬満織物株式会社	先染帯
13	有限会社織匠小平	先染帯
14	門倉メリヤス株式会社	洋装品（紳士靴下、ジャケット、セーター、カーディガン、パンツ、スカート、帽子）
15	株式会社結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	有限会社絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	胴裏絹、長襦袢地、白生地、八掛、比翼地、後染反物（作家もの、黒紋付）
22	宮階織物株式会社	先染反物、後染反物
23	21世紀の絹を考える会	帯（草木染袋帯、唐織袋帯、先染袋帯）、後染反物（色無地、訪問着）
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地、マフラー
25	丸幸織物有限会社	白生地
26	織匠万勝	帯地、先染着尺、後染着尺
27	有限会社織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー・腹巻、手袋・靴下））
28	株式会社丸万中尾	後染反物（江戸小紋、色無地、変一越、紋意匠、友禅）、帯
29	株式会社むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社高島屋	後染反物（振袖、七五三着物）、長襦袢地
31	株式会社さが美	後染反物（冬用・夏用黒紋付、色無地）
32	有限会社まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社小いけ	後染反物（色無地、黒紋付）
35	株式会社伊と幸	後染反物（色無地）、白生地、胴裏絹
36	株式会社四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）
37	株式会社和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社榊屋高尾	帯（袋帯）
39	株式会社つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
41	株式会社小倉商店	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
42	染織家 柳 崇	先染反物、帯
43	染織家 児玉 京子	先染反物
44	草木染工房山村	先染反物、帯、ストール、
45	手織り よおん	先染反物、帯

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
46	祝嶺染織研究所	先染反物、帯
47	株式会社龍工房	組紐
48	からん工房	先染反物（紋紵）、先染反物（緋）、帯
49	たわた工房	先染反物、帯
50	山音株式会社	後染反物（変三越、駒紵）
51	やまと株式会社	後染反物
52	株式会社御園織物	先染反物、帯
53	桜井株式会社	先染帯
54	有栖川織物有限会社	帯
55	太田和株式会社	先染反物（結城紵）、帯（結城紵）
56	株式会社岩田	帯
57	有限会社神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
58	浅山織物株式会社	帯
59	株式会社やまと	帯
60	田中種株式会社	後染反物（小紋）
61	株式会社京扇	後染反物（色無地）、胴裏絹（パールトーン加工）
62	株式会社なごみや	後染反物（色無地、黒紋付）
63	丸池藤井株式会社	後染反物（色無地）、八掛
64	久保商事株式会社	和装小物（帯揚げ）、和装小物（半衿）
65	加賀グンゼ株式会社	胴裏地
66	千切屋株式会社	後染反物（訪問着、付下）、帯
67	荒川株式会社	帯、帯揚げ
68	第一衣料株式会社	後染反物（色無地）
69	株式会社紅輪	後染反物（色無地）
70	装いの道株式会社	胴裏絹（ぐんま 200(トルマリン加工、灰汁浸け加工)、ぐんまレピア、新小石丸)
71	株式会社高橋屋	胴裏絹（灰汁浸け加工）
72	おお又株式会社	胴裏絹（灰汁浸け加工）
73	株式会社天野屋呉服店	胴裏絹（灰汁浸け加工）、白生地
74	株式会社きもの潮見	胴裏絹（パールトーン加工）
75	株式会社とみひろ	胴裏絹（酵素精練）
76	株式会社細安	胴裏絹（酵素精練）
77	京和きもの株式会社	胴裏絹（酵素精練）
78	株式会社まるため	胴裏絹（トルマリン加工、パーリー加工）
79	株式会社小川屋	胴裏絹（トルマリン加工、灰汁浸け加工）
80	株式会社エムラ	胴裏絹（酵素精練）
81	株式会社荒井呉服店	胴裏絹（酵素精練）
82	株式会社牛島屋	胴裏絹（酵素精練）
83	株式会社谷呉服店	胴裏絹（酵素精練）
84	株式会社登美屋	胴裏絹（パールトーン加工）
85	株式会社川平屋	胴裏絹（パールトーン加工）
86	丸専第一衣料株式会社（丸専きもの）	胴裏絹（パールトーン加工）
87	株式会社大丸松坂屋百貨店	胴裏絹（羽二重）、比翼（振袖用）、長襦袢
88	西陣織工業組合	洋装品（マフラー）
89	株式会社あきやま	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
90	藤井絞株式会社	後染反物（色無地）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
91	株式会社川まん	白生地
92	有限会社結城屋	白生地
93	株式会社ウメショウ	白生地
94	株式会社大徳	後染反物（色無地）
95	有限会社カシワギ	寝具寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スカーフ、ストール、ネクタイ、シャツ、スーツ）
96	株式会社北尾織物匠	袋帯、名古屋帯
97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締（金銀系 5% 以上）、羽織紐（男物、女物）
98	株式会社 菱健	後染反物（色無地）
99	西野株式会社	帯締、帯締（金銀系 5% 以上）
100	京商株式会社	後染反物（色無地、黒紋付）
101	株式会社猪井	後染反物
102	株式会社たちばな	後染反物
103	株式会社丸富美	後染反物（色無地）
104	株式会社絹もの屋まつなが	後染反物（色無地）
105	株式会社山正山崎	後染反物（色無地）
106	有限会社こくぶん呉服店	後染反物（色無地）
107	株式会社染織近藤	後染反物（色無地）
108	株式会社宮川呉服店	後染反物（色無地）
109	株式会社和らいふ	後染反物（色無地）
110	有限会社きものいなもと	後染反物（色無地）
111	株式会社世きね	後染反物（色無地）
112	株式会社西陣まいづる	袋帯（金銀系 5% 以上）
113	奥順株式会社	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
114	りょうぜん天蚕の会	天蚕紬糸ショール、天蚕ハイブリットショール
115	有限会社金屋	後染反物（色無地）
116	株式会社鶴屋百貨店	胴裏絹
117	黄八丈めゆ工房	先染反物（黄八丈）
118	京屋呉服店	後染反物（色無地）
119	合資会社車屋呉服店	後染反物（色無地）
120	宮崎株式会社	先染反物（結城紬）
121	有限会社内海呉服店きもの千歳屋	白生地
122	長島繊維株式会社	後染反物（色無地）
123	株式会社しょう美	後染反物（色無地）
124	（合）治田呉服店	後染反物（色無地）
125	株式会社丸十	後染反物（小紋）
126	株式会社竹田嘉兵衛商店	胴裏絹
127	有限会社樋口屋京染店	白生地（紋意匠）

蚕糸関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館 “紫” (ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 ((財) 日本きもの文化協会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川織維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

蚕糸関係団体ホームページ一覧

平成 22 年 4 月 22 日現在

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (シ^ャハ^ッソルクセンタ^ー)
(社) 日本生糸問屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.tafts.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科
<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程
<http://www.bio.kit.ac.jp/>
(国) 京都工芸繊維大学
<http://www.kit.ac.jp/>
(国) 信州大学繊維学部
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>
(国) 名古屋大学農学部
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学講座
http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html
(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>
(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻
http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department/bio/biofunc/index.html>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(独) 農業生物資源研究所
<http://www.nias.affrc.go.jp>
(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所
http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所
http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html
群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545
群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241
京都府織物・機械金属振興センター
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
京都市産業技術研究所繊維技術センター
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会
日本蚕糸学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>
<http://www.soc.nii.ac.jp/~jsss2/>

【博物館】

(財) シルクセンタ-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	51
(2) 養蚕業の概要	52
(3) 養蚕農家数の推移	53
(4) 収繭量の推移	54
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量 (2008 年)	55
(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008 年)	56
(7) 平成 21 年度蚕期別、都府県別繭生産量	57
(8) 生糸需給状況及び絹糸、絹織物の輸出入状況	58
(9) 生糸の織度別生産数量の推移	59
(10) 国内生糸価格実態	60
(11) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)	62
(12) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)	63
(13) 製糸工場の原料繭需給	64
(14) 製糸工場の操業状況	65
(15) 生糸在庫数量の内訳	66
(16) 蚕糸関係品目別輸入状況	67
(17) 生糸原産国別輸入状況	68
(18) 絹糸原産国別輸入状況	69
(19) 織物生産状況	70
(20) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	71
(21) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	72

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	73
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	74
(3) 中国省別家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	75
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	76
(5) 中国のシルク類 (生糸、絹糸、絹織物) の輸出状況	77
(6) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	78
(7) ブラジルの生糸、絹糸及び副蚕糸の内需、輸出別販売状況	79

-資料・国内-

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk-Raising Farmer	収穫量 Cocoon Production	1戸当 収穫量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
平成3年 1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
1992 4年	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
1993 5年	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
1994 6年	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
1995 7年	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
1996 8年	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
1997 9年	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 10年	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 11年	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 12年	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 13年	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 14年	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 15年	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 16年	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 17年	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 18年	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 19年	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 20年	1,021	382	374	1.6	6	80	38.1	14,043
2009 21年	915	327	357	1.2	6	60	34.9	11,472
前年対比 (%)	89.6	85.6	95.5	75.0	100.0	75.0	91.6	81.7

資料・養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。

ただし、平成13年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査であり、平成21年以降の養蚕業は全国農業協同組合連合会調査である。

・絹業は経済産業省調査によるものである。平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: The Regional Products and Industrial Crops Division, Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)
The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (Sericultural industry, after 2009)
The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項 目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
年 次 Year	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07 (%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～)。

(4) 収繭量の推移
Cocoon Production

項 目 Item 年 次 Year	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量（年間） Cocoon production per farm harvested area of mulberry
	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008	382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07 (%)	88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比 (%)	100.0	38.5	25.1	36.4					

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項 目 Item 県 別 Each Prefecture	年 計 Annual total			春 繭 spring silk-worm		初秋繭 Early autumn silk-worm		晩秋繭 late autumn silk-worm	
	養 蚕 農家数	桑使用 面 積	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩 手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮 城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山 形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福 島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨 城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃 木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群 馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼 玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千 葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12	..	2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山 梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長 野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐 阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳 島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛 媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊 本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2007年夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		2008春蚕用 for spring rearing		2008夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	2,600	73.5			2,380	67.9	4,980	33.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,390	30.6	360	10.3	2,750	18.5
ぐ ん ま × 200	302	8.5	1,575	20.2	210	6.0	2,087	14.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号			1,910	24.5			1,910	24.5
春 嶺 × 鐘 月			1,100	14.1			1,100	14.1
朝 ・ 日 × つくば・ね			100	1.3	500	14.3	600	4.0
新 小 石 丸	119	3.4	243	3.1			362	2.4
改 良 あ け ぼ の	180	5.1	80	1.0	50	1.4	310	2.1
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	108	3.1	99	1.3			207	1.4
上 州 絹 星	101	2.9	101	1.3			202	1.4
ぐ ん ま 黄 金	14	0.4	125	1.6	3	0.1	142	1.0
芙 ・ 蓉 × つくば・ね	100	2.8					100	0.7
蚕 太			41	0.5			41	0.5
新 青 白	11	0.3	23	0.3			34	0.3
小 石 丸			24	0.3			24	0.3
合 計 Total	3,535	23.8	7,811	52.6	3,503	23.6	14,849	100.0

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7)平成21年度蚕期別、都府県別繭生産量

(全農集計に財団法人大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センター集計分を加えた数値)

(単位:kg、%) 平成21年12月10日現在

都府県	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	20年	21年	前年対比	20年	21年	前年対比	20年	21年	前年対比	20年	21年	前年対比
青森県	226.3	192.1	84.9%	165.0	153.1	92.8%	138.1	151.1	109.4%	529.4	496.3	93.7%
岩手県	2,767.2	2,526.0	91.3%	4,014.2	3,305.0	82.3%	4,169.4	3,694.6	88.6%	10,950.8	9,525.6	87.0%
宮城県	4,373.5	3,299.9	75.5%	3,661.3	2,692.3	73.5%	4,306.4	3,757.0	87.2%	12,341.2	9,749.2	79.0%
秋田県	0.0	0.0	—	186.0	0.0	0.0%	285.3	0.0	0.0%	471.3	0.0	0.0%
山形県	2,188.4	2,296.3	104.9%	1,256.8	1,128.3	89.8%	2,163.4	1,807.6	83.6%	5,608.6	5,232.2	93.3%
福島県	18,099.0	15,188.1	83.9%	14,171.6	14,670.8	103.5%	19,158.9	17,676.8	92.3%	51,429.5	47,535.7	92.4%
茨城県	5,778.0	4,814.0	83.3%	3,809.0	3,541.5	93.0%	4,651.8	4,212.9	90.6%	14,238.8	12,598.4	88.5%
栃木県	14,781.6	12,984.9	87.8%	7,407.5	6,901.5	93.2%	17,169.4	15,963.0	93.0%	39,358.5	35,849.4	91.1%
群馬県	63,160.4	55,127.7	87.3%	40,895.1	34,626.8	84.7%	57,163.4	49,254.0	86.2%	161,218.9	139,008.5	86.2%
埼玉県	12,053.5	9,778.9	81.1%	8,713.2	7,000.2	80.3%	11,987.8	8,475.9	70.7%	32,754.5	25,255.0	77.1%
千葉県	1,385.6	1,347.4	97.2%	667.0	976.8	146.4%	1,814.6	1,390.9	76.7%	3,867.2	3,715.1	96.1%
東京都	588.4	539.8	91.7%	0.0	0.0	—	425.8	440.0	103.3%	1,014.2	979.8	96.6%
神奈川県	876.5	863.9	98.6%	594.3	593.0	99.8%	874.5	735.4	84.1%	2,345.3	2,192.3	93.5%
山梨県	5,574.2	4,522.1	81.1%	2,315.6	1,824.1	78.8%	3,780.3	2,807.9	74.3%	11,670.1	9,154.1	78.4%
長野県	4,834.2	2,531.4	52.4%	3,873.5	3,116.3	80.5%	5,057.6	2,932.4	58.0%	13,765.3	8,580.1	62.3%
新潟県	0.0	0.0	—	0.0	102.3	—	130.4	44.7	34.3%	130.4	147.0	112.7%
岐阜県	2,072.5	1,978.6	95.5%	537.3	391.2	72.8%	1,747.5	1,170.6	67.0%	4,357.3	3,540.4	81.3%
静岡県	408.0	0.0	0.0%	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	408.0	0.0	0.0%
愛知県	112.9	113.7	100.7%	0.0	0.0	—	0.0	34.9	—	112.9	148.6	131.6%
兵庫県	120.0	92.0	76.7%	92.0	83.6	90.9%	90.0	83.0	92.2%	302.0	258.6	85.6%
京都府	88.5	121.0	136.7%	73.1	74.1	101.4%	84.0	64.6	76.9%	245.6	259.7	105.7%
徳島県	2,390.5	1,674.6	70.1%	1,003.8	919.6	91.6%	1,163.2	1,148.6	98.7%	4,557.5	3,742.8	82.1%
愛媛県	2,590.9	2,340.2	90.3%	2,503.1	2,741.0	109.5%	2,220.1	1,937.2	87.3%	7,314.1	7,018.4	96.0%
高知県	339.2	344.5	101.6%	0.0	0.0	—	174.6	144.4	82.7%	513.8	488.9	95.2%
熊本県	911.8	817.3	89.6%	191.9	128.3	66.9%	202.7	237.5	117.2%	1,306.4	1,183.1	90.6%
宮崎県	0.0	165.6	—	0.0	0.0	—	0.0	131.8	—	0.0	297.4	—
全国計	145,721.1	123,660.0	84.9%	96,131.3	84,969.8	88.4%	138,959.2	118,296.8	85.1%	380,811.6	326,956.6	85.9%

資料:全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会

Source:National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation

(8) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2003	4,791	30,827	1,510	34,166	25,897	33,044	183	12,544	7,111
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,161	12,085	—	13,775	4,055	16,647	388	8,996	6,269
生糸年度 Silk Year									
2003	4,517	30,411	6,635	33,333	21,754	33,261	182	13,036	7,206
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009	1,029	12,857	—	14,383	3,661	17,481	366	8,639	6,182
2009 - 4	111	529	—	797	4,205	1,459	26	834	574
5	91	1,379	—	1,517	4,158	1,092	33	727	526
6	101	800	—	1,218	3,841	1,363	54	900	514
7	94	927	—	957	3,905	1,656	49	793	504
8	88	921	—	847	4,060	1,646	37	683	469
9	94	1,174	—	1,117	4,211	1,525	31	603	448
10	93	1,083	—	1,440	3,947	1,664	26	737	657
11	86	1,060	—	1,365	3,728	1,525	65	733	476
12	82	1,771	—	1,526	4,055	1,423	37	715	529
2010 - 1	71	1,061	—	1,239	3,948	1,683	21	781	444
2	78	722	—	930	3,818	1,435	4	563	485
3	87	1,182	—	1,437	3,650	1,051	13	600	618
4	78	612	—	1,111	3,229	1,318	9	710	557
5	77	1,532	—	1,177	3,661	1,192	20	821	511

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on data of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	生 糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
暦 年						
Calendar Year						
2003	4,791	13	343	2,865	1,038	533
2004	4,387	2	471	2,389	948	581
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
生糸年度						
Silk Year						
2003	4,517	7	334	2,689	955	530
2004	3,868	4	482	1,845	918	622
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	0	205	358	208	242
2009 - 4	111	—	32	32	21	26
5	91	0	17	25	23	25
6	101	0	11	37	23	29
7	94	0	19	37	23	14
8	88	0	11	39	17	20
9	94	0	14	36	22	22
10	93	0	24	26	24	18
11	86	0	12	25	25	24
12	73	0	20	26	11	16
2010 - 1	70	0	25	15	10	19
2	78	0	10	42	8	17
3	87	0	19	28	27	13
4	78	—	31	13	9	25
5	77	—	9	34	9	25

資 料：農林水産省生産局調査（～2010.3）。中央蚕糸協会（2010.4～）。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
Central Raw Silk Association (2010.4～).

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10)国産生糸価格実態

Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円/kg
(Unit:Yen/kg)

Size 織度	21d	27d	31d	平均 Average
平成17年	3,870	3,173	3,107	3,383
平成18年	4,617	4,267	4,080	4,321
平成19年	3,961	3,625	3,573	3,720
平成20年	4,266	3,754	3,489	3,836
平成21年	4,171	3,598	3,136	3,635
平成20年12月	4,087	3,883	3,403	3,791
平成21年 1月	4,209	3,652	3,374	3,745
2月	4,020	3,695	3,380	3,698
3月	4,160	3,655	3,139	3,836
4月	4,400	3,665	3,167	3,744
5月	4,318	3,402	3,243	3,654
6月	3,917	3,499	3,068	3,494
7月	4,106	3,562	2,914	3,527
8月	4,186	3,841	2,912	3,646
9月	4,150	3,627	2,986	3,588
10月	4,149	3,450	3,195	3,598
11月	4,461	3,547	3,145	3,718
12月	3,980	3,581	3,055	3,539
平成22年1月	3,900	3,876	3,643	3,806
2月	4,200	3,682	3,281	3,721
3月	4,000	3,758	3,327	3,695
4月	4,026	3,750	3,100	3,625
5月	4,144	3,876	3,314	3,778

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料：(社)日本生糸問屋協会

Remarks: Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source: Japan Raw Silk Dealers Association

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸A類(21デニール5A)
Standard Raw Silk:21d 5A

上段単位:元/kg、下段:円/kg
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
6月中	6月	元	266.40	266.40	267.80	267.80
		円	3,596	3,596	3,615	3,615
	7月	元	268.10	268.10	268.80	268.80
		円	3,619	3,619	3,629	3,629
	8月	元	267.80	267.80	268.80	268.80
		円	3,615	3,615	3,629	3,629
	9月	元	267.20	267.20	268.50	268.50
		円	3,607	3,607	3,625	3,625
	10月	元	265.50	265.50	267.20	267.20
		円	3,584	3,584	3,607	3,607
	11月	元	264.80	264.80	266.40	266.40
		円	3,575	3,575	3,596	3,596
	12月	元	268.20	268.20	268.80	268.80
		円	3,520	3,520	3,629	3,629
	1月	元	264.60	264.60	265.90	265.90
		円	3,572	3,572	3,590	3,590
	3月	元	266.60	266.60	267.60	267.60
		円	3,599	3,599	3,613	3,613
	5月	元	266.30	266.30	267.00	267.00
		円	3,595	3,595	3,605	3,605

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
7月中	7月	元	273.06	273.06	274.80	274.80
		円	3,686	3,686	3,710	3,710
	8月	元	273.30	273.30	274.98	274.98
		円	3,690	3,690	3,712	3,712
	9月	元	274.38	273.3	275.04	275.04
		円	3,704	3,690	3,713	3,713
	10月	元	273.24	273.24	274.92	274.92
		円	3,689	3,689	3,711	3,711
	11月	元	272.76	272.76	274.38	274.56
		円	3,682	3,682	3,704	3,707
	12月	元	272.64	272.64	274.50	274.50
		円	3,681	3,681	3,706	3,706
	1月	元	272.10	272.10	274.14	274.14
		円	3,673	3,673	3,701	3,701
	3月	元	272.58	272.58	274.38	274.38
		円	3,680	3,680	3,704	3,704
	5月	元	272.22	272.22	274.20	274.20
		円	3,675	3,675	3,702	3,702
	7月	元	277.50	277.50	278.10	278.10
		円	3,746	3,746	3,754	3,754

円換算レートは、1元＝13.50円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.50Yen

Source: China Silk Exchange (Zhejiang Sheng Jia Xing)

(11) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
対前年比 2009/08 (%)	86	89	50	85	80	70	75	90	89	100	—	—	100	100	88	75

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

(12) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2003	2004	2005	2006	2007	2008	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		3.4	2.6	2.7	3.7	3.9	2.5	64.1	1.7
	女子用外衣類 Women's upper garments		52.0	54.2	59.9	56.6	50.0	40.2	80.4	27.6
	うちブラウス Blouse of the inside		3.5	3.5	3.7	3.5	3.0	3.4	113.3	2.3
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.7	6.3	5.8	5.7	2.2	1.6	72.7	1.1
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		14.7	14.7	16.1	15.1	15.0	16.3	108.7	11.2
	ハンカチ Handkerchief		0.9	0.8	1.9	1.0	0.5	0.5	100.0	0.3
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.5	3.5	3.4	2.7	3.0	2.9	96.7	2.0
	ネクタイ類 Ties		26.1	26.4	25.2	21.4	21.6	20.8	96.3	14.3
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		18.0	19.3	19.9	18.5	21.2	19.8	93.4	13.6
	その他の洋装類 Other western clothes		24.1	25.0	26.7	26.3	25.4	23.7	93.3	16.3
洋装類計 Western clothes subtotal			14.7	152.8	161.6	151.0	143.0	128.3	74.2	88.2
和装類計 Japanese clothes subtotal			12.8	13.5	17.4	18.4	15.5	14.7	94.8	10.1
	うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside		9.4	10.0	14.1	16.0	12.9	12.1	106.6	8.3
その他 Others			1.5	1.5	2.1	2.5	2.5	2.4	96.0	1.7
合 計 Total			161.7	167.8	181.0	171.9	161.0	145.4	90.3	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note :Total may not added up due to round off.

(13) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills (単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

項 目 Item 年 月 Year & Month		総 計 Grand Total (Unit : Ton by Fresh Weight)		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2003		1,598	1,612	761
2004		1,291	1,500	553
2005		866	830	589
2006		600	646	541
2007		548	581	505
2008		393	518	379
2009		319	388	319
生糸年度 Silk Year				
2003		1,477	1,554	448
2004		1,056	1,280	224
2005		839	673	390
2006		562	599	349
2007		502	583	266
2008		406	452	224
2009		324	337	209
Year	Month			
2009	— 4	△ 1	36	253
	5	△ 1	31	222
	6	21	33	209
	7	88	31	266
	8	56	30	292
	9	27	32	287
	10	9	31	265
	11	103	29	340
	12	5	26	319
2010	— 1	16	24	312
	2	△ 1	26	285
	3	△ 1	28	257
	4	1	23	235
	5	0	26	209

資 料：農林水産省生産局調査（～2010.3）。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会（2010.4～）。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）.
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(14) 製糸工場の操業状況
Activities of Reeling Mills

項目 Item 年 月 Year & Month	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
		運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year						
2002	17	607	414	68	290	263
2003	14	444	285	64	290	228
2004	13	426	262	62	292	208
2005	10	203	126	62	269	111
2006	9	114	94	82	266	103
2007	8	112	93	83	266	100
2008	6	112	90	80	266	90
2009	6	118	71	60	259	82
2008 — 5	6	112	100	89	22	101
6	6	112	95	85	23	100
7	6	112	92	82	23	99
8	6	112	91	81	21	92
9	6	112	84	75	23	91
10	6	112	87	78	24	92
11	6	112	94	84	21	89
12	6	112	90	80	22	90
2009 — 1	6	112	91	81	20	85
2	6	118	89	75	21	88
3	6	118	90	76	22	89
4	6	118	86	73	22	85
5	6	118	77	65	20	80
6	6	118	77	65	23	83
7	6	118	72	61	23	83
8	6	118	75	64	20	82
9	6	118	77	65	22	82
10	6	118	77	65	24	82
11	6	118	74	63	21	81
12	6	118	71	60	21	82
2010 — 1	6	118	79	67	20	81
2	6	118	77	65	21	80
3	6	118	80	68	22	80
4	7	118	79	67	20	90
5	7	118	75	64	21	91

資料：農林水産省生産局調査（～2010.3）。中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010.4～）。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (~2010. 3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010, 4~).

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(15) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	總 計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
曆 年 Calendar Year									
2003	25,897	8,001	1,663	235	5,784	319	30,827	32,954	17,896
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
生糸年度 Silk Year									
2003	21,754	9,163	1,842	560	6,516	245	30,411	37,843	12,591
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
2009 — 4	4,205	4,205	361	15	3,248	581			
	5	4,158	4,158	376	15	3,266	501		
	6	3,841	3,841	382	15	3,056	388		
	7	3,898	3,898	381	15	3,062	440		
	8	4,060	4,060	362	15	3,156	527		
	9	4,211	4,211	345	15	3,264	587		
	10	3,947	3,947	339	15	3,055	538		
	11	3,728	3,728	359	10	2,926	433		
	12	4,055	4,055	355	10	3,162	528		
2010 — 1	3,948	3,948	355	10	2,995	588			
	2	3,818	3,818	351	10	2,961	496		
	3	3,650	3,650	342	0	2,863	445		
	4	3,229	3,229	355	0	2,478	396		
	5	3,661	3,661	358	0	2,795	508		

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

備 考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Remarks : Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion reelers.

(16)蚕糸関係品目別輸入状況(平成17年～22年5月)

Breakdown of Silk-Related Products Imports (2005～May 2010)

	単位 Unit	平成22年(2010)		平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	平成17年 (2005)	21年/20年 2009/08 (%)
		(5月) May	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	1,532	5,109	12,085	15,242	12,858	21,148	22,915	79.3
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	1,192	6,682	16,647	22,636	19,439	31,524	32,699	73.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	—	—	149	317	333	430	520	47.0
繭 Cocoon	kg	—	7,000	9,800	4,000	13,750	18,565	16,300	33.7
真綿 Floss Silk	kg	—	—	—	29,071	28,660	34,176	45,186	—
ペニエ Peigne	kg	—	—	35,331	2,770	6,336	19,760	15,068	1275.5
くず繭 Waste Cocoon	kg	356	6,850	33,450	23,770	17,184	1,020	3,650	140.7
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	202,220	242,082	234,894	216,422	—
その他の絹くず Other Silk Waste	kg	9,347	56,088	103,122	193,125	238,507	255,951	319,072	53.4
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	9,703	62,938	171,903	450,956	532,769	545,801	878,398	38.1
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other	kg	52,689	175,530	335,710	526,662	608,270	756,065	847,200	63.7
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	7,513	50,892	97,554	143,585	117,265	208,913	202,901	67.9
絹織物 Silk Fabrics	m ²	821,314	3,475,939	8,996,010	11,540,335	11,355,333	12,989,059	15,999,327	78.0

資料：財務省関税局

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(17) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国 名 Country 年 月 Year & Month		計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
		Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
暦 年 Calendar Year							
2007		12,858 (149)	8,804 (124)	3,848 (25)	-	206 (-)	-
2008		15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	-	117 (-)	-
2009		12,085 (72)	8,169 (51)	3,855 (21)	11 (-)	50 (-)	-
生糸年度 Silk Year							
2007		16,185 (93)	11,410 (69)	4,607 (24)	-	168 (-)	-
2008		12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	-
2009		12,845 (66)	8,787 (38)	3,986 (28)	-	73	-
2008	- 5	3,574 (29)	2,542 (20)	1,026 (9)	-	6	-
	6	1,362 (5)	1,128	233 (5)	-	1	-
	7	1,517 (21)	1,090 (21)	407	-	20	-
	8	1,129 (29)	726 (15)	385 (14)	-	18	-
	9	1,135 (21)	906 (21)	212	-	17	-
	10	1,280	913	347	-	20	-
	11	682 (5)	512	151 (5)	-	20	-
	12	684 (10)	397 (10)	272	-	14	-
2009	- 1	1,004	693	309	-	2	-
	2	516	195	321	-	-	-
	3	921 (7)	820 (7)	97	-	5	-
	4	529 (18)	333 (10)	181 (8)	11	5	-
	5	1,379 (5)	859 (5)	520	-	-	-
	6	800	636	162	-	2	-
	7	927	842	79	-	6	-
	8	921 (10)	819 (10)	96	-	7	-
	9	1,174	890	284	-	-	-
	10	1,083 (15)	776 (2)	299 (13)	-	7	-
	11	1,060 (16)	500 (16)	553	-	7	-
	12	1,771	807	954	-	10	-
2010	- 1	1,061	857	205	-	-	-
	2	722	490	229	-	3	-
	3	1,182 (5)	639	512 (5)	-	31	-
	4	612	449	163	-	-	-
	5	1,532 (20)	1,082 (10)	450 (10)	-	-	-

資 料 : 財務省関税局調査

備 考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(18) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
	2006	31,524	94	17,019	8,706	27	—	5,675	3
	2007	19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7
	2008	22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
	2009	16,647	—	9,655	5,096	10	—	1,742	144
生糸年度 Silk Year									
	2006	21,561	78	11,212	5,735	18	1	4,518	3
	2007	22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10
	2008	18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
	2009	17,481	—	9,940	5,065	7	—	1,953	186
2008	— 5	2,067	—	1,146	615	—	—	304	2
	6	2,087	23	1,302	600	—	—	161	1
	7	2,459	—	1,502	555	2	—	400	—
	8	2,311	—	1,275	753	1	—	282	—
	9	1,979	—	1,103	644	1	—	226	5
	10	1,451	—	781	462	—	—	208	—
	11	1,518	—	645	687	—	—	186	1
2009	— 12	1,065	—	609	279	2	—	174	1
	1	1,281	—	842	278	—	—	159	2
	2	801	—	253	463	—	—	65	19
	3	1,213	—	734	300	3	—	176	—
	4	1,459	—	959	317	—	—	148	35
	5	1,092	—	672	362	2	—	57	—
	6	1,363	—	768	489	—	—	106	—
	7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—
	8	1,646	—	842	664	—	—	140	—
	9	1,525	—	911	447	4	—	106	58
	10	1,664	—	808	563	0	—	293	—
	11	1,525	—	800	604	—	—	120	0
	12	1,423	—	1,021	170	—	—	202	30
2010	— 1	1,683	—	1,086	478	—	—	118	1
	2	1,435	—	713	491	2	—	230	—
	3	1,051	—	506	343	1	—	132	68
	4	1,318	—	747	363	—	—	178	29
	5	1,192	—	692	342	—	—	157	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(19) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位 : 1,000㎡)

(Unit : 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2003	23,935	8,374	3,801	2,464	2,109	11,509	7,747	3,762	4,052
2004	21,895	7,510	3,511	2,182	1,817	10,875	7,431	3,444	3,510
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,248	6,930	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	3,733	1,445	1,205	1,083	6,094	3,966	2,128	1,645
2010 — 1	834	271	105	88	78	443	288	155	119
2	939	305	118	99	88	499	325	175	134
3	965	314	122	101	91	512	334	179	138
4	997	324	126	105	94	529	345	185	143
5	981	319	124	103	92	521	339	182	140

資 料 : (社) 日本絹人織織物工業会。

備 考 : 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver`s Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(20) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item 年月 Year & Month	絹織物生産数量		丹 後 Tango		長 浜 Nagahama		西 陣 Nishijin	
	Silk Fabrics Production		(白生地) (White Fabrics)		(白生地) (White Fabrics)		(帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2003	23,935	88.5	1,171,145	99.3	208,660	91.0	922,533	92.4
2004	21,895	91.7	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,816	90.3	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,507	90.6	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.9	867,490	88.7
2009	11,472	81.7	503,365	76.6	73,681	83.3	746,538	86.1
2008 — 1	1,101	93.1	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
2	1,300	97.5	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
3	1,282	95.3	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
4	1,200	90.1	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
5	1,201	96.5	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6	1,263	92.2	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
7	1,184	91.4	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	1,028	91.2	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,156	86.7	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,123	86.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,127	85.7	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,078	83.2	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 — 1	876	79.5	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	1,033	79.5	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	999	77.9	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	987	82.2	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	935	77.8	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	1,009	79.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	958	80.9	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	853	83.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	963	83.3	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10	944	84.1	40,356	80.7	6,027	77.1	57,802	93.0
11	978	86.8	47,618	89.2	6,920	86.8	66,104	94.5
12	937	86.9	43,241	88.1	6,061	102.9	61,841	111.2
1	834	95.2	31,911	114.2	5,989	110.3	64,521	91.9
2	939	90.9	46,194	95.2	6,366	106.2	68,288	85.2
3	965	96.6	43,859	99.8	7,813	117.2	75,704	106.9
4	997	101.0	44,458	101.1	7,506	110.9	86,802	122.7
5	981	104.9	42,508	107.0	6,642	128.7	70,454	140.9
6			44,160	96.4	7,316	112.7	72,395	121.7

資 料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks：Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

(21)全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)
暦年 Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2008 - 5	288,128	▲ 3.2	12,762	▲ 4.9	211	31.6	4,635	1.3	2,840	▲ 11.7	1,123	▲ 7.7
6	281,951	▲ 1.8	11,894	▲ 13.8	123	▲ 70.1	4,206	▲ 10.0	2,934	▲ 16.7	1,081	▲ 19.8
7	298,366	▲ 0.5	13,702	3.2	341	▲ 13.1	4,634	▲ 1.5	3,637	9.1	1,346	9.7
8	291,154	▲ 4.0	9,945	▲ 0.5	769	48.6	3,124	▲ 1.5	2,259	▲ 0.7	1,060	4.1
9	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6
11	284,762	▲ 0.5	14,547	1.3	158	▲ 68.5	6,205	7.3	2,646	▲ 1.9	1,490	2.1
12	336,976	▲ 4.6	13,644	▲ 8.4	346	168.6	5,429	▲ 12.2	2,449	▲ 14.7	1,558	▲ 0.5
2009 - 1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3
8	290,972	2.6	8,882	▲ 10.2	368	▲ 51.7	2,820	▲ 9.2	2,185	▲ 2.2	907	▲ 14.1
9	277,110	1.0	9,651	▲ 2.5	215	▲ 2.4	3,273	▲ 8.4	2,141	2.1	932	3.3
10	287,789	1.6	12,287	▲ 2.3	75	▲ 80.8	4,685	0.1	2,705	1.0	1,220	9.3
11	284,740	2.2	13,698	▲ 4.3	236	50.0	5,558	▲ 7.8	2,512	▲ 4.3	1,392	▲ 6.0
12	337,887	2.1	14,546	8.7	344	▲ 0.3	5,750	9.2	2,678	11.0	1,656	7.7
2010 - 1	291,918	1.7	12,997	▲ 3.7	102	▲ 69.3	5,969	▲ 3.4	2,383	▲ 6.2	1,045	2.4
2	261,918	▲ 0.5	9,325	6.1	440	167.8	4,012	4.9	1,678	0.1	717	3.4
3	319,991	4.4	13,147	▲ 1.1	235	▲ 55.3	6,289	1.3	2,116	4.9	860	3.2
4	299,996	▲ 0.7	10,703	▲ 13.1	116	▲ 67.9	4,110	▲ 8.2	2,123	▲ 12.3	817	▲ 14.7
5	280,714	▲ 0.7	12,049	▲ 2.7	124	▲ 31.6	4,097	▲ 5.7	2,834	4.1	1,079	4.0

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau,MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts &sweaters and other items.

Year value is mean of the each month.

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2003年	2004年	2005年
		トン	トン	トン
日本	Japan	780	683	626
中国	China	480,774	547,091	621,461
インド	India	117,000	120,000	126,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	9,966	8,005	7,146
タイ	Thailand	10,500	10,650	10,650
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	3,200	2,543
トルコ	Turkey	169	169	170
ブルガリア	Bulgaria	0.3	20	42
ギリシャ	Greece	60	70	70
フィリピン	Philippines	23	22	14.4
シリア	Syria	15	11.5	5.5
主要国の計	Total	663,487	730,922	809,728

区 分		2006年	2007年	2008年
		トン	トン	トン
日本	Japan	505	433	382
中国	China	739,715	779,261	683,387
インド	India	135,000	150,000	133,316
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,051	8,617	6,266
タイ	Thailand	10,100	1,785	7,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	25,760
イラン	Iran	2,104	1,665	1,185
トルコ	Turkey	350	130	126
ブルガリア	Bulgaria	65	55	48
ギリシャ	Greece	100	104	0
フィリピン	Philippines	16	9	6
シリア	Syria	3	2.5	2.5
主要国の計	Total	937,009	983,062	879,179

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降2007年までを不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1Figures ofJapan are based on the data of the Agricultural Production Bureau,MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB),Ministry ofTextiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSEDA).

Others than these countries,based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam(since2003) and Uzbekistan(since2002until2007) are not reported ,they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2003年		2004年		2005年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	287	4,800	263	4,400	151	2,500
中国	China	83,763	1,396,100	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700
インド	India	13,970	232,800	14,620	243,700	15,445	257,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,563	26,100	1,512	25,200	1,285	21,400
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,420	23,700	1,420	23,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	500	8,300	395	6,600
トルコ	Turkey	28	500	28	500	30	500
ブルガリア	Bulgaria	0	0	3	100	6	100
ギリシャ	Greece	4	100	4.5	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	3	100	1.1	0
シリア	Syria	2	0	1.5	0	0.7	0
主要国の計	Total	104,970	1,749,600	101,936	1,699,100	109,849	1,830,800

区 分		2006年		2007年		2008年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	119	2,000	105	1,800	95	1,600
中国	China	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000	98,620	1,643,700
インド	India	16,525	275,400	18,320	305,300	18,370	306,200
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,387	23,100	1,220	20,300	1,177	19,600
タイ	Thailand	1,080	18,000	760	12,700	1,100	18,300
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,417	23,600
イラン	Iran	324	5,400	253	4,200	180	3,000
トルコ	Turkey	25	400	20	300	15	300
ブルガリア	Bulgaria	5	100	7.5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	0	0	0	0
フィリピン	Philippines	1.6	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.5	0	0	0	0.4	0
主要国の計	Total	115,926	1,932,300	132,457	2,207,500	123,233	2,053,900

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降2007までを不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002 until 2007) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(3) 中国省別家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数
Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of
Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2007	2008	対前年比 2008/07	2007	2008	対前年比 2008/07
山 西	Shanxi	5,800	6,033	104	130	64	49
河 北	Hebei	1,020	1,000	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	104,119	95,476	92	22,000	20,450	93
浙 江	Zhejiang	83,900	64,319	77	18,500	17,950	97
安 徽	Anhui	38,100	33,400	88	5,200	5,500	106
江 西	Jiangxi	12,400	10,015	81	2,500	2,570	103
山 東	Shandong	40,500	34,530	85	7,200	5,530	77
河 南	Henan	13,700	11,641	85	3,300	2,800	85
湖 北	Hubei	15,800	21,200	134	470	332	71
湖 南	Hunan	4,200	4,300	102	60	58	97
広 東	Guangdong	81,127	70,693	87	1,400	1,513	108
広 西	Guangxi	205,163	170,900	83	11,000	14,069	128
重 慶	Chongqing	24,800	22,110	89	7,800	5,497	70
四 川	Sichuan	83,700	68,576	82	24,700	16,400	66
貴 州	Guizhou	2,532	3,626	143	-	23	-
雲 南	Yunnan	36,600	40,348	110	1,640	2,871	175
陝 西	Shaanxi	24,600	23,800	97	2,300	2,868	125
甘 肅	Gansu	500	420	84	-	-	-
寧 夏	Ningxia	500	520	104	50	30	60
新 疆	Xinjiang	200	480	240	-	30	-
内 蒙 古	Inner Mongolia	-	-	-	60	65	108.33
合 計	Total	779,261	683,387	88	108,310	98,620	91

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1997年～2008年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	前年比 08/07(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	100.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	100.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai								0.0	0.0				
江 蘇	Jiangsu	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	91.3
浙 江	Zhejiang	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	76.2
安 徽	Anhui	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	86.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	83.3
山 東	Shandong	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	87.5
河 南	Henan	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	85.7
湖 北	Hubei	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	131.3
湖 南	Hunan	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	87.7
広 西	Guangxi	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	83.4
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing		2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	88.0
四 川	Sichuan	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	82.1
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	200.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	108.1
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	96.0
甘 肅	Gansu								0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia								0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
合 計	Total	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	87.7

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2009年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	6,569,701	78.43	169,347	85.25
2 韓国	South Korea	535,549	95.45	15,298	102.90
3 日本	Japan	452,022	68.23	13,085	68.07
4 ベトナム	Vietnam	375,651	59.74	10,753	65.15
5 イタリア	Italy	256,086	30.89	7,581	32.41
6 ルーマニア	Romania	255,816	22.80	7,174	23.79
7 パキスタン	Pakistan	177,598	71.93	4,587	79.16
8 バングラデッシュ	Bangladesh	151,813	78.57	3,798	84.36
9 シンガポール	Singapore	129,035	189.66	3,251	208.51
10 ミャンマー	Myanmar	65,661	118.00	1,594	122.07
11 その他	Others	258,273	37.59	7,053	39.69
合計	Total	9,227,205	68.70	243,521	72.97

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2010年1月～5月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	2,056,502	88.09	71,156	139.56
2 ベトナム	Vietnam	258,911	656.33	8,841	953.34
3 韓国	South Korea	192,083	147.37	6,765	208.25
4 日本	Japan	190,261	136.80	7,082	198.41
5 ルーマニア	Romania	173,574	140.89	6,240	200.12
6 イタリア	Italy	105,475	99.73	3,896	132.34
7 バングラデッシュ	Bangladesh	94,736	138.17	3,207	211.94
8 パキスタン	Pakistan	48,011	67.09	1,605	103.77
9 ミャンマー	Myanmar	42,064	132.70	1,377	205.04
10 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	32,193	3,514.52	1,066	5,033.77
11 その他	Others	127,859	90.08	4,441	131.78
合計	Total	3,321,669	104.22	115,676	160.85

相手国	Country	絹糸 Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	2,477,192	456.28	63,805	427.09
2 日本	Japan	596,647	95.02	18,318	91.10
3 パキスタン	Pakistan	464,458	111.39	13,203	112.44
4 イタリア	Italy	412,419	44.99	12,492	43.37
5 ドイツ	Germany	296,058	74.82	9,325	67.56
6 韓国	South Korea	202,018	463.33	5,923	398.83
7 タイ	Thailand	88,127	41.63	2,647	41.30
8 インドネシア	Indonesia	78,856	162.88	2,102	159.86
9 シンガポール	Singapore	69,474	287.05	1,617	256.15
10 ベトナム	Vietnam	56,380	1124.45	1,416	588.72
11 その他	Others	184,838	106.93	5,381	126.61
合計	Total	4,926,467	144.64	136,229	128.62

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	589,730	42.28	20,854	63.66
2 日本	Japan	232,743	118.56	9,171	158.85
3 パキスタン	Pakistan	207,597	92.65	7,728	133.88
4 イタリア	Italy	199,902	90.62	7,510	118.86
5 ドイツ	Germany	94,583	56.43	3,399	63.80
6 韓国	South Korea	68,793	92.48	2,589	133.69
7 タイ	Thailand	55,258	139.58	2,124	192.84
8 インドネシア	Indonesia	43,969	158.38	1,574	235.45
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	22,841	-	0,806	-
10 ベトナム	Vietnam	20,798	61.99	0,717	88.34
11 その他	Others	72,400	57.28	2,304	66.49
合計	Total	1,608,614	64.21	58,776	91.93

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	65,737,464	112.31	160,690	115.57
2 パキスタン	Pakistan	45,144,585	221.13	88,970	212.78
3 イタリア	Italy	36,326,731	80.82	105,440	73.08
4 香港	Hong Kong	17,155,562	61.78	75,032	61.09
5 韓国	South Korea	17,005,031	83.70	63,282	79.55
6 日本	Japan	11,401,420	83.87	29,884	79.73
7 シンガポール	Singapore	10,373,370	144.46	36,621	190.37
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	9,144,231	132.50	28,526	127.03
9 マレーシア	Malaysia	9,118,447	134.96	30,400	132.01
10 アメリカ	United States	5,460,308	65.40	30,024	62.19
11 その他	Others	35,259,585	101.90	116,842	92.90
合計	Total	262,126,734	105.13	765,711	95.27

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 イタリア	Italy	22,687,672	140.85	70,419	155.15
2 インド	India	21,853,060	86.59	64,605	111.97
3 パキスタン	Pakistan	14,047,703	111.17	33,950	146.70
4 香港	Hong Kong	6,932,666	103.44	32,975	110.56
5 韓国	South Korea	6,774,706	98.67	28,255	113.06
6 日本	Japan	4,649,936	100.64	14,488	121.89
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	3,605,024	113.46	11,873	111.44
8 マレーシア	Malaysia	3,092,164	60.99	13,094	80.56
9 シンガポール	Singapore	3,068,072	82.67	13,178	105.85
10 トルコ	Turkey	2,586,723	153.26	9,628	172.38
11 その他	Others	16,608,646	135.62	64,061	133.31
合計	Total	105,906,372	108.00	356,526	124.69

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6)ブラジルの繭・生糸生産量推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)	暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1985/86	11,353	1985	1,553,776	25,896
1986/87	10,575	1986	1,663,976	27,733
1987/88	11,830	1987	1,658,375	27,640
1988/89	11,470	1988	1,748,996	29,150
1989/90	15,829	1989	1,696,622	28,277
1990/91	17,221	1990	1,693,206	28,220
1991/92	17,586	1991	2,077,155	34,619
1992/93	19,134	1992	2,296,053	38,268
1993/94	18,260	1993	2,325,809	38,763
1994/95	16,260	1994	2,535,440	42,257
1995/96	15,368 (95%)	1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996/97	14,811 (96%)	1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997/98	14,594 (99%)	1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998/99	10,305 (71%)	1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999/2000	8,473 (82%)	1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000/01	9,916 (117%)	2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001/02	10,238 (103%)	2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002/03	9,966 (97%)	2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003/04	8,005 (80%)	2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004/05	7,146 (89%)	2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005/06	8,051 (113%)	2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006/07	8,617 (107%)	2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007/08	6,266 (73%)	2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008/09	4,835 (77%)	2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009/10 〔見込み〕 〔Estimate〕	4,586 (95%)	2009 〔見込み〕 〔Estimate〕	850,000 (72%)	14,167

資料:ブラジル製糸協会

注:()内は対前年比

[]内の見込みは2009年10月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of October 2009.

(7) ブラジル生糸、絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況

Domestic Demand and Exports of Raw Silk, Twisted Silk Yarn and Secondary Silk Yarn in Brazil

単位：ト、()内は60kg俵

Unit: ton, Figures in Parenthesis: Bales of 60kg

区分		2003年 実績	2004年 実績	2005年 実績	2006年 実績	2007年 実績	2008年 実績	2009年予測 forecast	09/08 (%)
生糸 Raw Silk	内需 Domestic Demand	90 (1,500)	106 (1,767)	118 (1,967)	72 (1,200)	84 (1,400)	70 (1,167)	56 (933)	80.0
	輸出 Export	1,057 (17,617)	837 (13,950)	676 (11,267)	782 (13,033)	876 (14,600)	721 (12,017)	624 (10,400)	86.5
	計 Total	1,147 (19,117)	943 (15,717)	794 (13,233)	854 (14,233)	960 (16,000)	791 (13,183)	680 (11,333)	86.0
絹撚糸 Twisted Silk Yarn	内需 Domestic Demand	77 (1,283)	71 (1,183)	92 (1,533)	74 (1,233)	78 (1,300)	89 (1,483)	79 (1,317)	88.8
	輸出 Export	431 (7,183)	516 (8,600)	454 (7,567)	392 (6,533)	274 (4,567)	274 (4,567)	145 (2,417)	52.9
	計 Total	508 (8,467)	587 (9,783)	546 (9,100)	466 (7,767)	352 (5,867)	363 (6,050)	224 (3,733)	61.7
糸類計 Total	内需 Domestic Demand	167 (2,783)	177 (2,950)	210 (3,500)	146 (2,433)	162 (2,700)	159 (2,650)	135 (2,250)	84.9
	輸出 Export	1,488 (24,800)	1,353 (22,550)	1,130 (18,833)	1,174 (19,567)	1,150 (19,167)	995 (16,583)	769 (12,817)	77.3
	計① Total①	1,655 (27,583)	1,530 (25,500)	1,340 (22,333)	1,320 (22,000)	1,312 (21,867)	1,154 (19,233)	904 (15,067)	78.3
副蚕糸 Secondary Silk Yarn	内需 Domestic Demand	264	123	43	84	72	76	49	64.5
	輸出 Export	217	386	295	241	256	182	147	80.8
	計② Total②	481	509	338	325	328	258	196	76.0
	②/①	29.1	33.3	25.2	24.6	25.0	22.4	21.7	

資料：ブラジル製糸協会

注：俵換算は、合計で一致しない場合がある。

Source: ABRASSEDA

Note: Bale value may not add up.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2010 年 9 月号 NO.14 平成 22 年 9 月 1 日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず